

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■法律理論特殊講義	商法第一特殊講義IA 今泉 恵子	2学期	1	2	1
		1年			
	商法第一特殊講義IIA 高橋 衛	1学期	1	2	2
		1年			
	民事訴訟法第一特殊講義IA 小池 順一	1学期	1	2	3
		1年			
	民事訴訟法第一特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	刑法第一特殊講義A 山本 光英	1学期	1	2	4
		1年			
	刑事訴訟法第一特殊講義A 吉村 弘	1学期	1	2	5
		1年			
	刑事学第一特殊講義A 朴 元奎	1学期	1	2	6
		1年			
	社会法第一特殊講義IA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会法第一特殊講義IIA 津田 小百合	2学期	1	2	7
		1年			
	国際法第一特殊講義A 二宮 正人	2学期	1	2	8
		1年			
日本法制史第一特殊講義A 岡 邦信	1学期	1	2	9	
	1年				
法哲学第一特殊講義A 重松 博之	1学期	1	2	10	
	1年				
憲法第一特殊講義IA 植木 淳	2学期	1	2	11	
	1年				
憲法第一特殊講義IIA 中村 英樹	2学期	1	2	12	
	1年				
行政法第一特殊講義IA 岡本 博志	1学期	1	2	13	
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律理論特殊講義	行政法第一特殊講義IIA	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法第一特殊講義IA	2学期	1	2	14
	矢澤 久純	1年			
	民法第一特殊講義IIA	1学期	1	2	
	休講	1年			
	民法第一特殊講義IIIA	1学期	1	2	
	休講	1年			
	民法第一特殊講義IVA	2学期	1	2	15
	小野 憲昭	1年			
行政法第一特殊講義IIIA	1学期	1	2		
休講	1年				
刑法第一特殊講義IIA	2学期	1	2		
休講	1年				
■法律実践特殊講義	商法第一特殊講義IB	1学期	1	2	16
	今泉 恵子	1年			
	商法第一特殊講義IIB	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民事訴訟法第一特殊講義IB	2学期	1	2	17
	小池 順一	1年			
	民事訴訟法第一特殊講義IIB	1学期	1	2	18
	中村 仁	1年			
	刑法第一特殊講義B	2学期	1	2	19
	山本 光英	1年			
刑事訴訟法第一特殊講義B	2学期	1	2	20	
吉村 弘	1年				
刑事学第一特殊講義B	2学期	1	2	21	
朴 元奎	1年				
社会法第一特殊講義IB	2学期	1	2	22	
石田 信平	1年				

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律実践特殊講義	社会法第一特殊講義IIB 津田 小百合	1学期	1	2	23
		1年			
	国際法第一特殊講義B 二宮 正人	1学期	1	2	24
		1年			
	日本法制史第一特殊講義B 岡 邦信	2学期	1	2	25
		1年			
	法哲学第一特殊講義B 重松 博之	2学期	1	2	26
		1年			
	知的財産法第一特殊講義B 木村 友久	集中	1	2	27
		1年			
	法律実務第一特殊講義B 中村 仁 他	1学期	1	2	28
		1年			
	憲法第一特殊講義IB 植木 淳	1学期	1	2	29
		1年			
	憲法第一特殊講義IIB 中村 英樹	2学期	1	2	30
		1年			
	行政法第一特殊講義IB 岡本 博志	2学期	1	2	31
		1年			
行政法第一特殊講義IIB 福重 さと子	1学期	1	2	32	
	1年				
民法第一特殊講義IB 矢澤 久純	2学期	1	2	33	
	1年				
民法第一特殊講義IIB 福本 忍	2学期	1	2	34	
	1年				
民法第一特殊講義IIIB 休講	2学期	1	2		
	1年				
民法第一特殊講義IVB 小野 憲昭	1学期	1	2	35	
	1年				
行政法第一特殊講義IIIB 休講	1学期	1	2		
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■法律実践特殊講義	刑法第一特殊講義IIB 大杉 一之	1学期	1	2	36
	1年				
■政策理論特殊講義	政治学第一特殊講義IA 休講	1学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	政治学第一特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	行政学第一特殊講義IA 森 裕亮	1学期	1	2	37
	1年				
■政策理論特殊講義	行政学第一特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	国際関係論第一特殊講義IA 休講	2学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	国際関係論第一特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	政治思想史第一特殊講義IA 中道 壽一	2学期	1	2	38
	1年				
■政策理論特殊講義	政治思想史第一特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	政治史第一特殊講義IA 休講	2学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	政治史第一特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	政治史第一特殊講義IIIA 休講	1学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	地域研究第一特殊講義IA 三宅 博之	2学期	1	2	39
	1年				
■政策理論特殊講義	地域研究第一特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
	1年				
■政策理論特殊講義	政策研究第一特殊講義IA 古賀 哲矢	2学期	1	2	40
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■政策理論特殊講義	政策研究第一特殊講義IIA 檀原 真二	1学期	1	2	41
		1年			
	政策研究第一特殊講義IIIA 狭間 直樹	2学期	1	2	42
		1年			
	政策研究第一特殊講義IVA 申 東愛	1学期	1	2	43
		1年			
	政策研究第一特殊講義VA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政策研究第一特殊講義VIA 坂本 隆幸	1学期	1	2	44
		1年			
■政策基礎特殊講義	政治学第一特殊講義IB 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政治学第一特殊講義IIB 濱本 真輔	1学期	1	2	45
		1年			
	行政学第一特殊講義IB 森 裕亮	2学期	1	2	46
		1年			
	行政学第一特殊講義IIB 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際関係論第一特殊講義IB 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際関係論第一特殊講義IIB 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政治思想史第一特殊講義IB 中道 壽一	1学期	1	2	47
		1年			
政治思想史第一特殊講義IIB 休講	2学期	1	2		
	1年				
政治史第一特殊講義IB 休講	1学期	1	2		
	1年				
政治史第一特殊講義IIB 休講	2学期	1	2		
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■政策基礎特殊講義	政治史第一特殊講義IIIB	2学期	1	2	
	休講	1年			
	地域研究第一特殊講義IB	2学期	1	2	48
	三宅 博之	1年			
	地域研究第一特殊講義IIB	1学期	1	2	
	休講	1年			
	政策研究第一特殊講義IB	1学期	1	2	49
	古賀 哲矢	1年			
	政策研究第一特殊講義IIB	2学期	1	2	50
	榎原 真二	1年			
政策研究第一特殊講義IIIB	1学期	1	2	51	
狭間 直樹	1年				
政策研究第一特殊講義IVB	1学期	1	2	52	
申 東愛	1年				
政策研究第一特殊講義VIB	2学期	1	2	53	
横山 麻季子	1年				
政策研究第一特殊講義VIB	2学期	1	2	54	
坂本 隆幸	1年				
■政策応用特殊講義	政策応用第一特殊講義I	集中	1	2	55
	松尾 哲也	1年			
	政策応用第一特殊講義II	2学期	1	2	56
	中園 哲	1年			
	政策応用第一特殊講義III	1学期	1	2	57
	古田 稔	1年			
政策応用第一特殊講義IV	1学期	1	2	58	
山脇 直祐・中野 次吉	1年				
政策応用第一特殊講義V	集中	1	2		
休講	1年				
■特別研究I	商法第一特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	59
	今泉 恵子	1年			

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■特別研究I	民事訴訟法第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑法第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	60
	山本 光英	1年			
	刑事訴訟法第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	61
	吉村 弘	1年			
	刑事学第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	62
	朴 元奎	1年			
	社会法第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	国際法第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	63
	二宮 正人	1年			
	日本法制史第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	64
	岡 邦信	1年			
	政治学第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	行政学第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	国際関係論第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
政治思想史第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	65	
中道 壽一	1年				
政治史第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4		
休講	1年				
地域研究第一特別研究	2学期(ペア)	1	4	66	
三宅 博之	1年				
政策研究第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	67	
古賀 哲矢	1年				
政策研究第一特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	68	
檜原 真二	1年				

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■特別研究I	政策研究第一特別研究 坂本 隆幸	1・2学期 (ペア)	1	4	69
		1年			
	憲法第一特別研究 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	行政法第一特別研究 岡本 博志	1・2学期 (ペア)	1	4	70
		1年			
民法第一特別研究 小野 憲昭	1・2学期 (ペア)	1	4	71	
	1年				
法哲学第一特別研究 重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	72	
	1年				
■特別研究II	私法領域第一特別研究 小野 憲昭 他	1・2学期 (ペア)	1	4	73
		1年			
	公法領域第一特別研究 岡本 博志 他	1・2学期 (ペア)	1	4	74
		1年			
	地域政策第一特別研究 中道 壽一 他	1・2学期 (ペア)	1	4	75
		1年			
	国際政策第一特別研究 三宅 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	76
		1年			

商法第一特殊講義IA

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、企業活動に関連して発生している金融上の諸問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

特に、最近の世界金融危機と現行の法制度との相互作用についても一緒に考えてみたい。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明。興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認し、あるいは問題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる。
1) 裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、
2) 入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第3回 候補テーマを紹介し合う。テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)、探してみるべき資料などについて、お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)をお互いに公表し、報告順番を決定する。
- 第5回 オリンパス事件を考える
- 第6回 サブ・プライムローンについて考える
- 第7回 銀行取引に関する事例研究
- 第8回 銀行経営の健全性に関する事例研究
- 第9回 銀行の貸し手責任に関する検討
- 第10回 証券取引に関する事例研究
- 第11回 証券会社の経営に関する事例研究
- 第12回 金融商品販売と消費者保護に関する事例研究
- 第13回 保険取引に関する事例研究
- 第14回 保険会社の健全な経営に関する事例研究
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法第一特殊講義IIA

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

諸外国の会社法制との比較分析を通じて我が国の会社法の理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

以下の文献を予定しています。

Reinier Kraakman et al., The Anatomy of Corporate Law (Oxford U.P.)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第一特殊講義IA

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論をする。このことにより民事訴訟法についての知識を修得することを目的とする。最終的に、レポートを提出してもらう。レポートの分量は、10000字程度を予定している。なお、レポートのテーマについては、受講生と相談の上、決定する。

教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に、受講生に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 法律上の争訟
- 3回 移送
- 4回 除斥、忌避
- 5回 死者を当事者とする訴訟
- 6回 法人でない社団の当事者能力
- 7回 法定訴訟担当
- 8回 訴訟能力
- 9回 将来の給付の訴え
- 10回 遺言無効確認の訴え
- 11回 証書真否確認の訴え
- 12回 訴えの交換的変更
- 13回 境界確定の訴え
- 14回 相殺の抗弁と重複訴訟
- 15回 一部請求

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生に個別に指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特殊講義A

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに応じて、刑法的知識の拡充を図り、より一層深い刑法学に関する幅広い知識と論理的思考力を身につけることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

開講後、適宜決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講後、適宜決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究テーマは、受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 授業計画・内容の説明
- 第2回 文献収集の方法
- 第3回 判例収集の方法
- 第4回 文献の読み方
- 第5回 文献のまとめ方
- 第6回 判例の読み方
- 第7回 判例のまとめ方
- 第8回 研究テーマに関する基礎理論①(犯罪論体系)
- 第9回 同②(行為論)
- 第10回 同③(構成要件論)
- 第11回 同④(違法論)
- 第12回 研究テーマに関する文献のまとめ(報告)①
- 第13回 同まとめ(まとめ方指導・検討)②
- 第14回 研究テーマに関する判例のまとめ(報告)①
- 第15回 同まとめ(まとめ方指導・報告)②

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(報告)及び平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書等によって基本的概念を十分に理解しておくこと。関連する専門論文を読み、理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法に関する基礎的・基本的事項を基本書等で十分に理解しておくこと。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第一特殊講義A

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの刑事訴訟法の文献を用い、アメリカの刑事訴訟法の状況を見ていくことにします。

教科書 /Textbooks

Kamisar, LaFave, Israel, King, Kerr, 『Modern Criminal Procedure』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定したいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1～23頁の訳
- 第2回 24～35頁の訳
- 第3回 35～54頁の訳
- 第4回 55～73頁の訳
- 第5回 74～93頁の訳
- 第6回 94～109頁の訳
- 第7回 110～132頁の訳
- 第8回 133～156頁の訳
- 第9回 157～180頁の訳
- 第10回 181～198頁の訳
- 第11回 199～217頁の訳
- 第12回 218～241頁の訳
- 第13回 242～264頁の訳
- 第14回 265～282頁の訳
- 第15回 283～306頁の訳

成績評価の方法 /Assessment Method

訳出レポート・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に文献を読んでいること。

履修上の注意 /Remarks

英語の文献を用いますので、その点注意して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの刑事訴訟法を学ぶ機会はまだ少ないと思いますので、興味のある院生は受講して下さい。

キーワード /Keywords

Criminal Procedure

刑事学第一特殊講義A

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「アメリカ犯罪学理論の現状」をテーマとして、以下の文献を輪読・検討します。アメリカ犯罪学研究における理論構築と理論検証の両側面における最新の動向を検討することによって、犯罪学理論に関する知見を深めることが、本授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

Francis T. Cullen, John Paul Wright & Kristie R. Blevins (eds.), Taking Stock: The Status of Criminological Theory. (Advances in Criminological Theory Volume 15), New Brunswick, USA: Transaction Publishers, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J. Robert Lilly, Francis T. Cullen, & Richard A. Ball, Criminological Theory: Context and Conquences. (5th ed.), Thousand Oaks, CA: Sage Publications, 2010.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (アメリカ犯罪学理論の現状)
- 第2回 社会的学習理論
- 第3回 コントロール理論
- 第4回 総合緊張理論
- 第5回 制度的アノミー理論
- 第6回 集合的効力理論
- 第7回 ラディカル犯罪学
- 第8回 ピースメーカー犯罪学
- 第9回 ライフコース犯罪学
- 第10回 Sampson and Laubのライフコース理論
- 第11回 発達論的およびライフコース理論の構築
- 第12回 抑止理論のメタ分析
- 第13回 修復的司法と犯罪
- 第14回 犯罪理論と矯正的介入との関係
- 第15回 犯罪学理論の実証性の評価

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学の一層深く理解したい場合は、刑法および刑事訴訟法などの関連科目の受講をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

英語文献を多読するので、相応の語学力・読解力を必要とします。

学部時代に犯罪学や刑事司法政策を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法第一特殊講義IIA

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講生の関心に合わせ各自テーマを設定する。選んだテーマに沿って、各自資料収集等を行い、その位置づけや方向性などについて検討・討論の上、最終的には、簡単な研究発表をしてもらう。研究者養成コースの科目であるので、受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない予定。
必要に応じ、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上、テーマに即した適切な参考書を適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
(受講生各自の関心のあるテーマを照らし合わせた上で、講義内容及び進行計画を立てる)
- 第2回～第6回：進行計画に沿って、各受講生の研究経過発表と参加者全員による討論
- 第7回：中間報告及び課題抽出
- 第8回～第14回：中間報告で析出された課題について、さらなる調査・研究発表と討論
- 第15回：最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
日常の授業への取り組み...70% 研究報告内容...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第一特殊講義A

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。2012年度は、女子差別撤廃条約に焦点を当てます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』(日本評論社・2006年)○
 芹田健太郎=薬師寺公夫=坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』(信山社・2008年)
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法
- 第3回 テーマ決定と研究対象判例の選定
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動(UPR, Treaty Bodyにおける報告制度等)】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用:自動執行力】
- 第7回 判例研究I①(精読:事実関係の明確化)
- 第8回 判例研究I②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第9回 判例研究I③(報告担当者による判例報告)
- 第10回 判例研究II①(精読:事実関係の明確化)
- 第11回 判例研究II②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第12回 判例研究II③(報告担当者による判例報告)
- 第13回 判例研究III①(精読:事実関係の明確化)
- 第14回 判例研究III②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第15回 判例研究III③(報告担当者による判例報告)

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。

履修上の注意 /Remarks

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】 【女子差別撤廃条約】

日本法制史第一特殊講義A

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世の法の存在形態と法意識を探ることを目途とし、史料講読

教科書 /Textbooks

中世法制史料についてのテキストを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者による史料輪読

- 1 ガイダンス
- 2 中世法制史料についての解説 【鎌倉幕府法】
- 3 御成敗式目講読 1~8条
- 4 御成敗式目講読 9~16条
- 5 御成敗式目講読 17~25条
- 6 御成敗式目講読 26~34条
- 7 御成敗式目講読 35~43条
- 8 御成敗式目講読 44~51条
- 9 追加法講読【手続法】 19,30,42,73,76条
- 10 追加法講読【手続法】 87、93、146,168,212条
- 11 追加法講読【手続法】 260,264,303,322,446条
- 12 追加法講読【手続法】 547~555条
- 13 追加法講読【手続法】 556~558条、574~577条
- 14 追加法講読【手続法】 619,650、661,713,714条
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は事前に担当史料を読解しレジユメを作成しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第一特殊講義A

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとしては、現代ドイツにおける社会哲学の第一人者ともいえるユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究-(上)』（未来社）の検討を暫定的に想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【事実性と妥当性】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【法的妥当性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【社会学的法理論】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【哲学的正義論】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【私的自律と公的自律】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【討議原理と民主主義原理】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【コミュニケーション的権力】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【法治国家の諸原理】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【法の不確定性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【裁判の合理性】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【自由主義的法パラダイム】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【憲法裁判】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

憲法第一特殊講義IA

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最新の憲法判例に関する研究を行う。ただし、受講者の希望によっては授業計画を大幅に変更して、各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をする。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、十分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋和之他編『憲法判例百選I・II』(有斐閣・2007年)
浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 目黒社会保険事務所事件
- 3回 住基ネット違憲訴訟
- 4回 非嫡出子相続分差別違憲訴訟
- 5回 国籍法違憲訴訟
- 6回 国旗国歌拒否訴訟
- 7回 白山ひめ神社訴訟
- 8回 葛飾マンション事件
- 9回 メープルソープ写真集事件
- 10回 福島県青少年健全育成条例事件
- 11回 インターネットと名誉毀損
- 12回 建物区分所有法違憲訴訟
- 13回 裁判員制度の合憲性
- 14回 衆議院議員定数不均衡訴訟
- 15回 参議院議員定数不均衡訴訟

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は報告準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IIA

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の研究テーマに合わせて、当該テーマに関する学説状況や判例状況を確認、理解、整理することを目的とする。
形式は、参加者による報告と、それに基づく議論、検討を基本とする。
取り上げる文献や判決などは、参加者と相談しながら決定したい。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

定評ある各種基本書やコンメンタール、判例集、『ジュリスト増刊 憲法の争点』など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 取り上げる文献や判決の決定
- 第3回 基本書読解① -研究テーマに関する部分の報告
- 第4回 基本書読解② -前回報告に基づく議論・検討
- 第5回 専門文献読解① -研究テーマに関する専門文献の報告I
- 第6回 専門文献読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第7回 専門文献読解③ -研究テーマに関する専門文献の報告II
- 第8回 専門文献読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第9回 専門文献読解⑤ -研究テーマに関する専門文献の報告III
- 第10回 専門文献読解⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第11回 判例研究① -研究テーマに関連する判決の報告I
- 第12回 判例研究② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第13回 判例研究③ -研究テーマに関連する判決の報告II
- 第14回 判例研究④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、各回の報告内容や議論への参加状況などを総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の文献、資料を十分に読み込んで理解した上で、講義に参加することが必要になる。また、報告の準備が必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者の研究テーマに沿った内容にするつもりだが、それ故に十分な予習が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【憲法基本書読解】 【憲法専門文献読解】 【憲法判例研究】

行政法第一特殊講義IA

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「行政訴訟」
行政訴訟における諸問題につき、改正後の行政事件訴訟法の解釈論を中心として検討する。

教科書 /Textbooks

橋本博之『要説行政訴訟』（2006年、弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本博之『解説行政事件訴訟法』（2004年、弘文堂）
宇賀克也『改正行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）
日本弁護士連合会行政訴訟センター編
『実務解説行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）
小林久起『司法制度改革概説3 行政事件訴訟法』（2004年、商事法務）
松永邦男・小林久起『Q&A改正行政事件訴訟法』（2005年、ぎょうせい）
園部逸夫・芝池義一編『改正行政事件訴訟法の理論と実務』（2006年、有斐閣）
小早川光郎編『改正行政事件訴訟法』（ジュリスト増刊、2005年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
2回～ 4回 行政訴訟制度の沿革
(行政訴訟の意義、旧憲法下の行政裁判制度、現憲法下の行政訴訟制度、行政事件訴訟法の制定)
5回～ 6回 行政訴訟の種類
(抗告訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟の各類型)
7回～ 10回 抗告訴訟
(抗告訴訟の意義、類型区分、訴訟要件、審理過程、判決)
11回 当事者訴訟
(形式的当事者訴訟、実質的当事者訴訟、当事者訴訟活用の可能性)
12回 民衆訴訟と機関訴訟
(住民訴訟と選挙訴訟、地方自治法上の機関訴訟)
13回～ 14回 仮の権利保護
(仮の救済の意義、執行停止、仮の差止め、仮の義務付け)
15回 まとめ

※授業においては参加者に報告を求めることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義における参加状況を総合して判断する。具体的には講義中の態度、質問への対応、報告の内容、議論への参加状況等を評価する。
出席回数が全体の3分の2に満たない場合は不合格とする。
試験は行わない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する資料に目を通しておくこと。
報告を求めた場合には、事前にしかるべく準備すること。

履修上の注意 /Remarks

学部における憲法および行政法の知識があることを前提とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IA

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目では、民法の中の民法総則の部分について考える。民法を学習する場合、民法総則が基本となる。また、法学全般の基本でもある。ここを学習することは、大きな意味があるものと思われる。この分野について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めてゆきたい。

教科書 /Textbooks

民法総則分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 信義誠実の原則の適用範囲
- 3回 権利の濫用の適用範囲
- 4回 未成年者をめぐる諸問題
- 5回 成年後見をめぐる諸問題
- 6回 物をめぐる諸問題
- 7回 法律行為をめぐる諸問題
- 8回 虚偽表示をめぐる諸問題
- 9回 錯誤をめぐる諸問題
- 10回 詐欺、強迫をめぐる諸問題
- 11回 代理をめぐる諸問題
- 12回 無権代理をめぐる諸問題
- 13回 条件、期限をめぐる諸問題
- 14回 時効をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 ... 50 %
 学期末に提出してもらうレポート ... 50 %
 (レポート課題は、講義で取り扱ったものの中から、後日、指定。字数は1000字以上。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を必ず、持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則

民法第一特殊講義IVA

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最高裁判例を素材としながら、これまで学部で培ってきた民法に対する知識や理解を深めるとともに、民法研究に必要な基礎作業ができるようになることを目的としています。また、受講生から希望があれば、ドイツ民法またはフランス民法の基本的な文献を輪読しながら、わが国の民法上の問題点が外国の判例や学説ではどのように解決されているのか、一緒に検討してみようともっています。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例研究の意義、目的、関係文献検索の方法
- 4回 判例研究の方法、判例引用の仕方に関する基本事項の確認
- 5回 担当判例報告及び討論(1)
- 6回 担当判例報告及び討論(2)
- 7回 担当判例報告及び討論(3)
- 8回 担当判例報告及び討論(4)
- 9回 担当判例報告及び討論(5)
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
(判例研究の場合 - 新判例分担、外国文献の場合 - 分担と講読基本事項の確認)
- 11回 研究報告及び討論(1)
- 12回 研究報告及び討論(2)
- 13回 研究報告及び討論(3)
- 14回 研究報告及び討論(4)
- 15回 研究成果のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 20% 研究レポート(2000字詰原稿用紙30枚程度)... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告の際にはレジユメを用意してください。受講生も討論に積極的に参加するよう求めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法第一特殊講義IB

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なケースを取り上げながら、企業取引で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミの運営方針の説明。
テーマ・事例の選定にあたり、各自の問題意識を再確認し、あるいは、明確化する。
- 第02回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる
関連資料の多寡や入手の難易度を調査して、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第03回 複数の報告候補テーマを紹介し合う。
テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)などについて、意見交換を行う。
- 第04回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)を暫定的に決定すると共に報告順番を定める。
- 第05回 報告と討論 例: 営業秘密と不正競争に関わる問題
- 第06回 報告と討論 例: 秘密保持契約をめぐる問題点
- 第07回 報告と討論 例: 新しい事業形態と名板貸責任
- 第08回 報告と討論 例: 新しい事業形態と報償責任
- 第09回 報告と討論 例: 銀行の貸付・融資をめぐる問題点
- 第10回 報告と討論 例: 銀行取引約定書における債権保全規定
- 第11回 報告と討論 例: 金利の規制
- 第12回 報告と討論 例: 貸付債権の流動化をめぐる問題点(住専問題・リーマンショックから学ぶ)
- 第13回 報告と討論 例: 信用保険・保証保険と保証の違いについて
- 第14回 報告と討論 例: 消費者信用と信用生命保険について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。
報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第一特殊講義IB

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、重要な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論する。最終的にレポートを作成することを目的とする。この講義を受講することにより、民事訴訟法についての幅広く、深い知識を修得できる。
レポートの分量は、10000字程度を予定している。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定する。

教科書 /Textbooks

特に、指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に受講生に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 攻撃防御方法の提出と信義則
- 3回 時機に遅れた攻撃防御方法
- 4回 弁論主義
- 5回 釈明権
- 6回 権利自白
- 7回 集団訴訟における証明
- 8回 概括的認定
- 9回 損害賠償額の算定
- 10回 違法収集証拠
- 11回 証明責任
- 12回 文書提出命令
- 13回 既判力の時的限界
- 14回 既判力の客観的範囲
- 15回 既判力の主観的範囲

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、文献・判例を充分調査・検討して、講義に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実際の民事訴訟は、実体法と手続法が交錯した世界であるが、具体的な訴訟事件を例に、民事訴訟の実務に関する基礎を学ぶ。

教科書 /Textbooks

講義の際にレジメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実務上問題となる事例や判例を材料として、民事訴訟法上の問題について検討する。

- 第1回 訴訟物とは何か
- 第2回 訴訟物と請求の趣旨、請求の原因の関係
- 第3回 訴訟物と既判力の関係
- 第4回 訴訟要件
- 第5回 訴えの利益、確認の利益
- 第6回 訴えの客観的併合
- 第7回 共同訴訟
- 第8回 補助参加、参加的効力
- 第9回 訴訟担当
- 第10回 既判力の基準時
- 第11回 既判力の主観的範囲
- 第12回 主張立証責任
- 第13回 弁論主義と釈明権
- 第14回 上訴審の構造
- 第15回 附帯控訴

成績評価の方法 /Assessment Method

試験のみ。出席点は原則としてつけない。(ゼミ形式にした場合は出席の有無も加味する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民事訴訟法と実体法(特に民法)の知識は、講義の前提として必須であるから、各自学習すること。講義には六法を持参すること。授業で配布するレジメはよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特殊講義B

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに応じて、刑法的知識の拡充を図り、より一層深い刑法学に関する幅広い知識と論理的思考力を身につけることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

開講後、適宜決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講後、適宜決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談のうえ決定する。

第1回 授業計画・内容の説明

第2回 文献収集の方法

第3回 文献のまとめ方

第4回 判例収集の方法

第5回 判例のまとめ方

第6回 刑法の基礎理論①、習得状況の確認

第7回 同②(行為論)

第8回 同③(因果関係論)

第9回 同④(構成要件論)

第10回 同⑤(違法論①)

第11回 同⑥(違法論②)

第12回 同⑦(責任論)

第13回 同⑧(錯誤論)

第14回 同⑨(未遂論)

第15回 同⑩(共犯論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(報告)及び平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書等によって刑法の基礎理論・基本的概念を十分に理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習を欠かさないこと。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第一特殊講義B

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの刑事訴訟法の文献を用い、アメリカの刑事訴訟法の状況を見ていきます。

教科書 /Textbooks

Kamisar, LaFave, Israel, King, Kerr 『Modern Criminal Procedure』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定したいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 307～321頁の訳
第2回 322～349頁の訳
第3回 350～370頁の訳
第4回 371～406頁の訳
第5回 406～419頁の訳
第6回 420～434頁の訳
第7回 435～464頁の訳
第8回 465～495頁の訳
第9回 496～514頁の訳
第10回 515～538頁の訳
第11回 539～560頁の訳
第12回 561～588頁の訳
第13回 589～613頁の訳
第14回 614～636頁の訳
第15回 637～650頁の訳

成績評価の方法 /Assessment Method

訳出レポート・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に文献を読んでいること。

履修上の注意 /Remarks

英語の文献を用いますので、その点注意して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの刑事訴訟法を学ぶ機会はありませんので、興味のある院生は受講して下さい。

キーワード /Keywords

Criminal Procedure

刑事学第一特殊講義B

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑事学調査研究のための統計学」をテーマとして、将来実証的調査研究を実施するうえで必要不可欠な統計学的知識の習得を目指します。アメリカ犯罪学・刑事司法政策の大学院プログラムにおいてテキストとしてよく利用されている基本文献を読み、統計学の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

James A. Fox, Jack Levin, & David R. Forde. Elementary Statistics in Criminal Justice Research, 3rd edition. Allyn & Bacon, 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Earl E. Babbie, The Practice of Social Research, (11 ed.) , Wadsworth Publishing, 2006.
- Michael G. Maxfield & Earl R. Babbie, Research Methods for Criminal Justice and Criminology (with CD-ROM and InfoTrac).(5th ed.), Wadsworth Publishing, 2007.
- Jon L. Proctor & Diane M. Badzinski, Introductory Statistics for Criminal Justice and Criminology. Prentice Hall, 2002.
- E.バビー著(渡邊聡子監訳)『社会調査法 1 基礎と準備編』(培風館、2003年)
- E.バビー著(渡邊聡子監訳)『社会調査法 2 実施と分析編』(培風館、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 なぜ犯罪学者は統計学を利用するのか。
- 第3回 統計データのまとめ(度数分布、百分率、比率、クロス集計)
- 第4回 中心的傾向を表わす測度(モード、中央値、平均)
- 第5回 練習問題1
- 第6回 散らばりを表わす測度(レンジ、分散、標準偏差)
- 第7回 確率と正規曲線
- 第8回 確率変数と確率分布
- 第9回 標本と母集団
- 第10回 サンプリング
- 第11回 練習問題2
- 第12回 統計的推論の考え方(標本分布、標準誤差、信頼区間)
- 第13回 統計的検定の考え方(仮説検定、有意水準、標本平均に基づく仮説検定、比率の検定)
- 第14回 分散分析(ANOVA)とχ²乗検定
- 第15回 練習問題3

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10% 練習問題...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学の一層深く理解したい場合は、「刑事学第一特殊講義B」「刑法特殊講義」および「刑事訴訟法特殊講義」の受講をお勧めします。主要単元毎に3回「練習問題」を実際に解いていきますので、関数計算可能な卓上電卓を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

統計学の英文テキストを読むので、英語の読解力を必要とします。
練習問題を数多く解いていくので、予習および復習にそれなりの時間をとることが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学部時代に統計学を履修していることが望ましいが、未修の場合であっても英語の読解力があれば十分に理解できる内容となっています。

キーワード /Keywords

社会法第一特殊講義IB

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、労働の意義や意味について詳述しているBudd, The Thought of Workを輪読しながら、労働法の在り方を検討します。現在、労働法はさまざまな問題に直面しています。労働の根本的な意義に立ち帰りながら、労働法の将来について議論します。

教科書 /Textbooks

John W. Budd, The Thought of Work(Cornell University Press, 2011)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、報告者の割当
- 第2回 労働法の課題と労働の意義の関係
- 第3回 労働の意義—総説
- 第4回 呪いとしての労働
- 第5回 自由としての労働
- 第6回 商品としての労働
- 第7回 産業市民権としての労働
- 第8回 不効用としての労働
- 第9回 自己実現としての労働
- 第10回 社会関係としての労働
- 第11回 他人に対するケアとしての労働
- 第12回 アイデンティティとしての労働
- 第13回 サービスとしての労働
- 第14回 労働の重要性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、報告内容、レポートの内容を総合的に評価します(発言の度合い・授業態度...40%、報告...30%、レポート...30%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英語の文献を輪読しますので、若干の英語力は必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くの人にとって、労働は人生の重要な部分を占めています。労働にどのような意味があるのか、労働が歴史的にどのように把握されてきたかを一度考えてみませんか。

キーワード /Keywords

労働法、労働の意義

社会法第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、その代表的な文献を収集・選択し、受講者全員で輪読・討論を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない予定。
必要に応じ、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上、各テーマに応じた適切な参考書等を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

複数の論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマの設定・文献の選択
- 第3回 テーマ①に関する文献の講読・討論(1)
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論(2)
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論(3)
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第7回 テーマ②に関する文献の講読・討論(1)
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論(2)
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論(3)
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第11回 テーマ③に関する文献の講読・討論(1)
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論(2)
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論(3)
- 第14回 テーマ③のまとめ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。
日常の授業への取り組み...70% 報告内容...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第一特殊講義B

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国連の設立基本条約である国連憲章を取り上げ、それを逐条的に検討していくことを通じ、国際機構法についての理解を深めることを目的とします。国連憲章の条文ごとに、同規定はどのように一般的に解されているのか、また、同規定に対する国連の実行はどのような特徴を示しているのか、について検討していきます。

2012年度は、とくに国連事務局の組織や活動と関連する国連憲章の条項について取り上げようと考えています。

教科書 /Textbooks

Bruno Simma, The Charter of the United Nations; A Commentary, Oxford Univ. Press, 1994
United Nations, Repertory of Practice of the United Nations, On web-site, www.un.org

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田岡良一『国際連合憲章の研究』(有斐閣, 1949年) ○

藤田久一『国連法』(東京大学出版会, 1998年) ○

なお、その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 United Nations, Repertory of Practice of the United Nationsの利用の仕方
- 第3回 国連事務局の組織構造
- 第4回 国連事務総長の役割と機能
- 第5回 国連事務局の機構改革
- 第6回 国連の実行の検討 国連憲章第97条「構成」① Bruno Simma
- 第7回 国連の実行の検討 国連憲章第97条「構成」② UN Reprtry
- 第8回 国連の実行の検討 国連憲章第98条「事務総長の任務」① Bruno Simma
- 第9回 国連の実行の検討 国連憲章第98条「事務総長の任務」② UN Reprtry
- 第10回 国連の実行の検討 国連憲章第99条「平和維持に関するSGの権限」① Bruno Simma
- 第11回 国連の実行の検討 国連憲章第99条「平和維持に関するSGの権限」② UN Reprtry
- 第12回 国連の実行の検討 国連憲章第100条「国際的職員としての地位」① Bruno Simma
- 第13回 国連の実行の検討 国連憲章第100条「国際的職員としての地位」② UN Reprtry
- 第14回 国連の実行の検討 国連憲章第101条「職員の任命」① Bruno Simma
- 第15回 国連の実行の検討 国連憲章第101条「職員の任命」② UN Reprtry

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。

クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ある程度の英語の力が必要となります。1週間に15ページ程度の資料を読んでいくため、クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められることとなります。

履修上の注意 /Remarks

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組み立てにも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国連憲章の条文を日本語と英語で比較検討してみたことがありますか。語句(単語)どうしの相関関係を理解しておく、と、国連に関する英語の資料を読むのが少しは楽になりますよ。また国連憲章の正文には、英語のほかに、中国語、フランス語、ロシア語、スペイン語で書かれたものがあります(あとアラビア語も公用語にはなっています)ので、いかがですか。

キーワード /Keywords

【国連事務局】 【国連憲章】 【事務総長】 【国際公務員】 【特権・免除】

日本法制史第一特殊講義B

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦国家法の講読

教科書 /Textbooks

テキスト配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者による史料の輪読

- 1 ガイダンス
- 2 今川仮名目録講読 1~6条
- 3 今川仮名目録講読 7~12条
- 4 今川仮名目録講読 13~18条
- 5 今川仮名目録講読 19~25条
- 6 今川仮名目録講読 26~33条
- 7 今川仮名目録追加講読 1~4条
- 8 今川仮名目録追加講読 5~9条
- 9 今川仮名目録追加講読 10~13条
- 10 今川仮名目録追加講読 14~18条
- 11 今川仮名目録追加講読 19~21条
- 12 今川仮名目録訴訟条目講読 1~5条
- 13 今川仮名目録訴訟条目講読 6~10条
- 14 今川仮名目録訴訟条目講読 11~13条
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は事前に担当史料を読解しレジユメを作成しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第一特殊講義B

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義の主題とする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキスト・内容は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。暫定的には、ユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究-(下)』(未来社)、またはヘーゲル(上妻精他訳)『法の哲学(上巻)(下巻)』(岩波書店)のうち、いずれか一方の精読・検討を候補として考えている。ただし、受講生と相談のうえ、受講生の問題関心に応じて、上記以外のテキストをとりあげる場合もある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【協議的政治】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【民主的手続きと中立性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【政治的公共圏】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【権力循環】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【公共的意見】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【私法の実質化】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【法的平等と事実的平等】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【手続き主義的法理解】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【合法性による正統性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【法治国家の理念】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【手続きとしての国民主権】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【ナショナル・アイデンティティ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

知的財産法第一特殊講義B

担当者名 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会のソフト化高度化に伴い知的財産のもたらす価値が増大している。知的財産を概観すると、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分されるが、知的財産法第二特殊講義Bは「思想または感情の創作物に関わるもの」と「営業上の信用が化体されているもの」を保護する著作権法・不正競争防止法を重点的に扱う。

教科書 /Textbooks

最高裁判所のホームページ上に配置されている判決文を利用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

半田正夫著「著作権法概説」一粒社
作花文雄「詳解著作権法」ぎょうせい
斎藤博・半田正夫編「著作権判例百選(別冊ジュリスト)」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要、各国の著作権制度
2. 著作権の保護客体I～著作物の定義と種類、二次的著作物および編集著作物
3. 著作権の保護客体II～プログラムの著作物、データベースの著作物
4. 著作権の保護客体III～キャラクター、タイプフェイス等
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権、著作者の死後の扱い
7. 著作権(著作財産権)I～著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権
8. 著作権(著作財産権)II～公衆送信権、その他の著作財産権
9. 著作権(著作財産権)III～著作権の制限、特に引用の考え方
10. 著作権侵害I～要件、依拠及び類似性等の判断
 - 1 1. 著作権侵害II～著作権侵害の効果、権利の用尽等
 - 1 2. 著作権侵害III～みなし侵害
 - 1 3. 著作隣接権～概論、実演家の権利、放送事業者の権利
パブリシティの権利
 - 1 4. 商標登録要件(実体的要件)と商標権侵害・不正競争防止法、パブリシティの権利
 - 1 5. まとめ
 - 1 6. 学年末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割、残りは最終判例評訳レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等の資料を利用して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
スカイプID kim-lab
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 著作権 著作者人格権 著作隣接権 不正競争行為

法律実務第一特殊講義B

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師, 阿野 寛之 / 北方キャンパス 非常勤講師
奥田 克彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ① 刑事事件における実務上の諸問題 (担当 弁護士阿野寛之)
- ② 法律相談の実務 (担当 弁護士奥田克彦)
- ③ マンションの法律問題 (担当 弁護士中村仁)

教科書 /Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 購読を要しない。
木谷明 (編著) 「刑事事実認定の基本問題・第2版」
石井一正 「刑事事実認定入門・第2版」
植村立郎 「実践的刑事事実認定と状況証拠」
- ②, ③については講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 刑事事実認定をめぐる諸問題
第1回 刑事事件における事実認定のあり方
第2回 目撃供述 (犯人識別供述) の信用性
第3回 状況証拠による事実認定
第4回 刑事裁判における「自白」
第5回 違法収集証拠排除法則
- ② 法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
第1回 弁護士業務における「法律相談」の占める位置 (法律相談は入り口である。)
第2回 典型的な民事事件の相談事案 (具体的な事件に即し)
第3回 家事事件 (夫婦関係・相続問題) 相談事案 (同上)
第4回 交通事故・刑事事件の法律相談 (同上)
第5回 ひるがえって、改めて法律相談の位置づけについて・その他
- ③ マンションをめぐる法律問題
第1回 区分所有建物とは何か
第2回 専有部分と共用部分
第3回 管理組合
第4回 管理者制度
第5回 管理者の権限

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記①は刑事法, 上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから, 各自学部で習ったことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IB

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法判例研究を行う。ただし、受講者の希望によっては授業計画を大幅に変更して、各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をする。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、充分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋和之他『憲法判例百選I・II』(有斐閣・2007年)
浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 人権享有主体(在留外国人選挙権訴訟)
- 3回 私人間効力(日産自動車事件)
- 4回 幸福追求権(輸血拒否訴訟)
- 5回 平等原則(国籍法事件)
- 6回 思想良心の自由(国旗国歌拒否訴訟)
- 7回 信教の自由・政教分離原則(砂川政教分離訴訟)
- 8回 表現の自由と事前抑制(北方ジャーナル事件)
- 9回 表現の自由と名誉・プライバシー(月刊ペン事件・夕刊和歌山時事事件)
- 10回 表現の自由と政治活動(葛飾マンション事件)
- 11回 経済的自由権(森林法違憲訴訟)
- 12回 適正手続保障(第三者所有物没収事件)
- 13回 生存権(堀木訴訟)
- 14回 教育を受ける権利(旭川学力テスト事件)
- 15回 選挙権(在外邦人選挙権訴訟)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は報告準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の研究テーマに合わせて、当該テーマに関する学説状況や判例状況を確認、理解、整理することを目的とする。形式は、参加者による報告と、それに基づく議論、検討を基本とする。取り上げる文献や判決などは、参加者と相談しながら決定したい。「憲法第一特殊講義IIB」の専門性をより高めたものと理解してもらいたい。したがって、取り上げる文献などは、より難易度の高いものとなる。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

定評ある判例集、「ジュリスト」や「法律時報」など専門誌掲載の論文など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 取り上げる文献や判決の決定
- 第3回 専門文献読解① -研究テーマに関する専門文献の報告I
- 第4回 専門文献読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第5回 専門文献読解③ -研究テーマに関する専門文献の報告II
- 第6回 専門文献読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第7回 専門文献読解⑤ -研究テーマに関する専門文献の報告III
- 第8回 専門文献読解⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第9回 判例研究① -研究テーマに関連する判決の報告I
- 第10回 判例研究② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第11回 判例研究③ -研究テーマに関連する判決の報告II
- 第12回 判例研究④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第13回 判例研究⑤ -研究テーマに関連する判決の報告III
- 第14回 判例研究⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、各回の報告内容や議論への参加状況などを総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の文献、資料を十分に読み込んで理解した上で、講義に参加することが必要になる。また、報告の準備が必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者の研究テーマに沿った内容にするつもりだが、それ故に十分な予習が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【憲法専門文献読解】 【憲法判例研究】

行政法第一特殊講義IB

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「情報公開法」

情報公開法制（情報公開法、情報公開条例）について解説し、あわせて情報公開に関する判例を検討することを通して情報公開法制についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（1999年、ぎょうせい）
宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説（第4版）』（2008年、有斐閣）
その他の参考文献については、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
2回～ 3回 情報公開法の基本原理
（情報公開の意義、情報公開の憲法上の基礎）
4回 情報公開法制の概要
（行政機関情報公開法、独立行政法人等情報公開法、情報公開条例）
5回～ 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1）
（情報・行政文書の意義、開示義務）
7回～ 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2）
（個人情報、法人等情報）
9回～ 10回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3）
（意思形成過程情報、事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報）
11回～ 12回 情報公開法：情報公開条例の仕組み（4）
（部分開示、応答拒否、裁量的開示）
13回～ 14回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5）
（開示手続、不服申立て、審査会による審査）
15回 まとめ
講義においては報告を求めることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加状況を総合的に評価する。具体的には講義における参加態度、報告の内容、討議への参加状況、質問への対応等を評価する。
出席回数が全体の3分の2に満たない場合は不合格とする。
試験は行わない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布する資料は事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

学部における憲法および行政法の知識があることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第一特殊講義IIB

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法で最近注目されているテーマの中から、参加者各人の関心に合うテーマを見つけて、それについて報告をしてもらうことで、行政法理論に関する理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、テーマについての話し合い
第2回～第15回 報告、それに基づく議論

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み60%、報告40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IB

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法の中の債権総論の分野について考える。近時、債権法改正の議論が起こっている。これを理解するためには、まず、現在の民法の債権法について理解する必要がある。その中でも、債権総論について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めていきたい。

教科書 /Textbooks

債権総論分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 物権と債権の違いをめぐる諸問題
- 3回 種類債権をめぐる諸問題
- 4回 強制履行をめぐる諸問題
- 5回 履行遅滞をめぐる諸問題
- 6回 履行不能をめぐる諸問題
- 7回 不完全履行をめぐる諸問題
- 8回 賠償範囲をめぐる諸問題
- 9回 債権者代位権をめぐる諸問題
- 10回 債権者取消権をめぐる諸問題
- 11回 多数当事者の債権関係をめぐる諸問題
- 12回 債権譲渡をめぐる諸問題
- 13回 弁済をめぐる諸問題
- 14回 相殺をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 50 %
学期末に提出してもらうレポート 50 %
(レポート課題は、授業で取り扱ったものの中から、後日、指定。字数は、1000字以上。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権総論

民法第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法・財産法分野に関する学術論文（なかでも、フランス民法を比較法または分析の主たる対象としている論説や研究ノート）の検討を行う。学部時代に培った分析力等を総動員して、質の高い報告、文献の検討、および論文執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の基本書・体系書、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版（年度）の六法は必携である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）※現在、入手困難な書籍なので、教員所有のものをコピー（研究該当箇所のみ）して配布する予定である。
山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）；定価（15,000円＋税）
※その他の参考書については、適宜指導のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内はキーワード。

第1回 ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。【大学院レベルの報告とは？】

第2回 報告学術論文概要報告（受講生全員）。【フランス債務法分野を対象とする代表的研究論文の紹介】

第3回 教員による報告および質疑・応答 【フランス債務法における法定解除の法的基礎と要件論】

第4回 教員による報告に対する質疑・応答 【黙示の解除条件とフランス民法1184条】、【フランス民法（債務法）改正】

第5回 院生による報告および質疑・応答 その1 【報告論説の内容そのものの理解】、【フランス民法上の法制度の理解】

第6回 院生による報告および質疑・応答 その2 【フランス民法における判例の意義を意識した質疑・応答】、【科学学派】

第7回 院生による報告および質疑・応答 その3 【比較法的考察（フランス民法とわが国の民法との差異に着目する）】

第8回 院生による報告および質疑・応答 その4 【わが国旧民法への接続（ボワソナード草案の研究も兼ねて）】

第9回 院生による報告および質疑・応答 その5 【ローマ法からフランス民法典制定までの流れを意識した質疑・応答】

第10回 院生による報告および質疑・応答 その6 【わが国における当該分野の研究の現状と課題を明確に示す質疑・応答】

第11回 原著（フランス債務法）研究その1 【現代フランス債務法における契約解除理論】 ※ただし、受講院生がフランス語を読めない場合、他の内容を協議のうえで決定することがありうる。

第12回 原著（フランス債務法）研究その2 【19世紀註釈学派に触れる（オーブリー＝ロー、ローランの著作など）】

第13回 原著（フランス債務法）研究その3 【フランス民法典の編纂過程に関する資料に触れる（共和国暦8年の草案など）】

第14回 原著（フランス債務法）研究その4 【フランス民法典に影響を与えた学説に触れる（ドマ、ポティエの著作など）】

第15回 まとめ

※最終授業終了時、論文（8,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス民法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を主たるテーマとした論説とする。執筆要領その他の詳細は、初回のガイダンス時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など...80%

※論文の内容...20%

【注意】論文未提出者には単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備、論文執筆など、かなり負担の大きい授業である。わが国の民法は当然のこと、フランス民法にも関心がないと生産的な授業・研究にならない。事前に参考文献に目を通すなど、自分でできる最大限の予習（研究）をしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス民法に関心を持とう！旧民法にも関心を持とう！

キーワード /Keywords

フランス債務法研究

民法第一特殊講義IVB

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 最新の最高裁判例を素材としながら、これまで学部において培ってきた民法に対する知識や理解を一層深めるとともに、具体的な解釈論が展開できるようにすることを目的としています。

教科書 /Textbooks
 最高裁判例の解説をまとめたプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じてその都度紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 授業ガイダンス
 - 2回 報告判例・担当者の決定(その1)
 - 3回 判例研究の意義、目的、関係文献検索の方法
 - 4回 判例研究の方法に関する基本事項の確認
 - 5回 担当判例報告及び討論(1)
 - 6回 担当判例報告及び討論(2)
 - 7回 担当判例報告及び討論(3)
 - 8回 担当判例報告及び討論(4)
 - 9回 担当判例報告及び討論(5)
 - 10回 報告判例・担当者の決定(その2)
 - 11回 担当判例報告及び討論(1)
 - 12回 担当判例報告及び討論(2)
 - 13回 担当判例報告及び討論(3)
 - 14回 担当判例報告及び討論(4)
 - 15回 担当判例報告及び討論(5)・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み... 20% レポート(2000字詰原稿用紙30枚程度)... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。必要なことは開講時に指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法に関して近年議論されている重要な理論的問題を取り上げて考察を加える。刑法に関する知識を拡充し、刑法理論の理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在および参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (レポート・レジユメを含む) ... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

履修上の注意 /Remarks

刑法 (刑法総論および刑法各論) をひと通り学んでいることがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論 犯罪論

行政学第一特殊講義IA

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、行政学の一般的包括的学習を目的とする。原則、テキストを輪読し、行政学の基本的内容を身につけた上で、議論を行う。

教科書 /Textbooks

真淵勝、『行政学』有斐閣、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 官僚制
- 第2回 国家公務員
- 第3回 行政ネットワーク
- 第4回 行政管理と行政改革
- 第5回 官民関係
- 第6回 行政責任
- 第7回 大都市行政
- 第8回 政策過程の理論
- 第9回 官僚制の合理性と非合理性
- 第10回 官僚制のモデル①【演繹的アプローチ】
- 第11回 官僚制のモデル②【帰納的アプローチ】
- 第12回 中央地方関係
- 第13回 行政学説史
- 第14回 日本の行政システム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、中間論文・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読において、事前準備は必須の作業である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第一特殊講義IA

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)

これまで、「現代政治思想」というテーマの下に、亀嶋庸一『20世紀政治思想の内部と外部』(岩波書店)を用いて、シュミット、アレントの政治思想やナショナリズムの政治思想について考察したり、岡野加穂留・伊藤重行編『政治思想とデモクラシーの検証』(東信堂)を用いて、ホッブズ、スピノザ、ルソーなどに関する諸論文を読み、また、生松敬三『二十世紀思想狩猟』(岩波現代文庫)を用いて、現代思想の萌芽や1920年代の政治文化を考察し、受講生の論文作成と関係付けながら、議論してきた。昨年度は、現代民主主義論を取り上げ、イアン・シャピロ『民主主義論の現在』(慶應義塾大学出版会、2010年)等をテキストにして、議論した。今年度も、「現代政治思想」というテーマの下に、受講生の論文作成との関連で具体的なテーマを決めるつもりであるが、受講生の特別の希望がなければ、「現代政治思想」を代表する幾人かの政治思想家を取り上げ、その理論を考察する予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献の一つとして、藤原保信『20世紀の政治理論』(藤原保信著作集第5巻 新評論、2006年)を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生の論文テーマを聞きながら、テキストの選定を行う。
特に希望がなければ、以下の内容で進めます。
- 第2回 科学とイデオロギーについて (M・ウェーバーを中心として)の発表と討議
- 第3回 科学とイデオロギーについて (C・シュミットを中心として)の発表と討議
- 第4回 科学とイデオロギーについて (K・マンハイムを中心として)の発表と討議
- 第5回 科学とイデオロギーについて (ウェーバー、シュミット、マンハイム)のまとめ
- 第6回 政治哲学の再生について (J・ロールズを中心として)の発表と討議
- 第7回 政治哲学の再生について (R・ドゥオーキンを中心として)の発表と討議
- 第8回 政治哲学の再生について (R・ノズィックを中心として)の発表と討議
- 第9回 政治哲学の再生について (ロールズ、ドゥオーキン、ノズィック)のまとめ
- 第10回 モダンとポスト・モダンについて (H・アレントを中心として)の発表と討議
- 第11回 モダンとポスト・モダンについて (J・ハーバーマスを中心として)の発表と討議
- 第12回 モダンとポスト・モダンについて (M・フーコーを中心として)の発表と討議
- 第13回 モダンとポスト・モダンについて (アレント、ハーバーマス、フーコー)のまとめ
- 第14回 本授業についてのまとめI
- 第15回 本授業についてのまとめII

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容と姿勢・方法

発表の姿勢・方法...20% 発表の内容...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメ作成

履修上の注意 /Remarks

履修条件は関心を持っていることのみ。法律系、政策系を問いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しいテーマやテキストも、みんなで読み議論していると、何らかの解決方法が見つかるものです。これまでの殻を破るためにも、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

地域研究第一特殊講義IA

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、まちづくりや開発においてよく用いられている「参加型」手法を使用し、地域・環境問題の発見、それをベースにした環境教育手法を整備する学習を行う。そのため、実習として一部、休暇などを利用して集中した授業を行うこともある。

教科書 /Textbooks

- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年
- * 森時彦『ファシリテーターの道楽箱』ダイヤモンド社、2008年
- * その都度、資料の配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 有田和正『環境教育としての「ゴミ学習」』明治図書、1996年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 地域・環境問題の発見 【地域・環境問題】
- 3回 地域・環境問題と参加型手法 【参加型手法】
- 4回 ファシリテーションの概念把握と実践 【ファシリテーション】
- 5回 地域・環境教育理論の紹介(1)
- 6回 地域・環境教育理論の紹介(2)
- 7回 参加型地域・環境教育モデル(アクティビティ)の紹介(1)
- 8回 参加型地域・環境教育モデル(アクティビティ)の紹介(2)
- 9回 参加型地域・環境教育モデル(アクティビティ)の紹介(3)
- 10回 発見した環境問題への解決のための地域・環境教育モデル(アクティビティ)作り(1)
- 11回 発見した環境問題への解決のための地域・環境教育モデル(アクティビティ)作り(2)
- 12回 発見した環境問題への解決のための地域・環境教育モデル(アクティビティ)作り(3)
- 13回 受講生による地域・環境教育モデル発表
- 14回 受講生による地域・環境教育モデル発表
- 15回 まとめ=ふりがえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む態度 ... 30 % 発表方法・内容 ... 50 % 討論への参加 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定資料の事前読解

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

独自に地域に入って参加型手法を用いて、アクションリサーチを行ってほしい。

キーワード /Keywords

参加型手法、地域・環境問題、ファシリテーション

政策研究第一特殊講義IA

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、我が国の都市環境は大きく変化している。その中で地方都市は、地域の産業を育成し、人口の流出を防ぎ、都市の活性化と持続的な発展に向けた努力を続けている。
この授業では、地域の競争力を高める観点から、産業政策のあり方を探る。

教科書 /Textbooks

マイケル.E.ポーター、(竹内弘高訳)(1999)『競争戦略論I』『競争戦略論II』ダイヤモンド社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 競争要因
- 3回 競争戦略の本質
- 4回 企業の価値連鎖
- 5回 情報技術の戦略性
- 6回 撤退障壁
- 7回 多角化企業の戦略
- 8回 北九州地域の技術系企業の実態I
- 9回 北九州地域の技術系企業の実態II
- 10回 競争力の源泉
- 11回 産業クラスター
- 12回 日本の産業クラスター計画
- 13回 企業立地
- 14回 企業誘致
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本の経済や産業に関心を持ち、その変化を知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIA

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えている（昨年は、『公共政策学の基礎』を多角的視点から輪読した）。今年は「ソーシャルキャピタル」に関する問題か「まちづくり」を中心とした問題（たとえば、中心市街地の空洞化問題等）さらには「ガバナンス」に関連する問題を取り上げたいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにした。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 公共政策とは何か
- 第3回 公共政策学の系譜
- 第4回 公共政策のアクター
- 第5回 アジェンダ設定理論
- 第6回 政策問題の構造化
- 第7回 公共政策の手段
- 第8回 公共政策規範
- 第9回 公共政策の決定と諸理論
- 第10回 公共政策の実施
- 第11回 公共政策の評価
- 第12回 政策決定とアイデア
- 第13回 公共政策のガバナンス
- 第14回 公共政策とソーシャルキャピタル
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーションを含む) ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIIA

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学术论文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学术论文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 福祉サービスの市場化①
- 第2回 福祉サービスの市場化②
- 第3回 福祉サービスの市場化③
- 第4回 高齢者福祉
- 第5回 高齢者福祉
- 第6回 高齢者福祉
- 第7回 児童福祉
- 第8回 児童福祉
- 第9回 児童福祉
- 第10回 障害者福祉
- 第11回 障害者福祉
- 第12回 障害者福祉
- 第13回 障害者福祉
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策研究第一特殊講義IVA

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政策過程と政治現象を理解するため、著作を読んで議論し、それに関する理解と知識を広げてもらう。各自の関心、論文テーマに関連する政策理論、政策過程論の資料について議論する。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、政策過程、ガバナンスに関する著作を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会、
 秋月謙吾 (2001)、行政・地方自治、東京大学出版会
 宮川公男 (2002)、政策科学入門、東洋経済新報社
 その他、ガバナンス、関連の論文、
 以上の本、論文を、参加者の論文テーマに合わせ、議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 紹介、読みたい本を選ぶ。
 第 2回 ~ 第 5回 宮川公男、政策科学入門
 第 6回 ~ 第 9回 中野実、現代日本の政策過程
 第 10回 ~ 第 14回 秋月謙吾、行政・地方自治。
 第 15回 まとめ

その他、論文のコピーを配布する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

政治学、政策過程論などの授業 (学部) を受講すること。
 論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
 参考文献を参照し、読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義VIA

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済パフォーマンスや人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する（諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など）。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

*政策研究特殊講義VI Bとの違いは、Aは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してBはAの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

教科書 /Textbooks

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

Alberto Alesina and Francesco Giavazzi. 2006. The Future of Europe: Reform or Decline. Cambridge: The MIT Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前に読み終えて授業に臨む。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長と平等; 3. 成長と平等II; 4. 資本主義経済の諸類型; 5. 雇用・失業の様態; 6. 雇用・失業の様態II; 7. 雇用保護・解雇規制と雇用; 8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II; 9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II; 10. 福祉政策、所得再分配、経済成長; 11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II; 12. 福祉国家の縮小とデータ; 13. 福祉国家の縮小とデータII; 14. 小括; 15. まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進捗を見て学期中に決める。研究論文の場合、研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究・論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストを行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

政治学第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政治を対象とした論文、著作の輪読を中心とする。それを通じて、①日本政治への理解を深めるとともに、②研究の方法や進め方について参考となる点を検討する。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 問題意識の報告
- 第3回 研究報告①
- 第4回 研究報告②

- 第5回 文献輪読①理論とモデル
- 第6回 文献輪読②方法論
- 第7回 文献輪読③方法論

- 第8回 文献輪読④政策過程
- 第9回 文献輪読⑤政策過程
- 第10回 文献輪読⑥政策過程

- 第11回 文献輪読⑦政治制度
- 第12回 文献輪読⑧政治制度
- 第13回 文献輪読⑨政治過程
- 第14回 研究報告③
- 第15回 研究報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (50%)、ゼミへの積極的な参加 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

討論に積極的に参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学第一特殊講義IB

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代行政研究の最近の動向をとりあげて、具体的な現象にも触れながら、検討を行うこととする。とりわけ、近年の行政研究において話題になるようになってきている「ガバナンス」概念に注目する。ガバナンス概念は、分野によってその使用法は異なるが、とりわけイギリス行政学においては、政府機能の拡大に伴うビッグ・ガバメントの成立によって、政府機構を通じた公共的問題の解決能力の限界が明らかにされる中で、各種の公共的問題に対処する複合的な組織間ネットワーク形成が図られるようになってきた状況をとらえる概念として使われている。また、政治や行政が、政府、住民、企業の間で一層の相互依存の深化をみせるようになったことをとらえ、新しい政治と行政のあり方とそれにかかわる主体間の関係をとらえようとする概念だとすることもできる。本講義は、こうしたガバナンス概念に関する議論と分析を中心に進めていく。

教科書 /Textbooks

Bell, S and A. Hindmoor, Rethinking Governance, Cambridge University Press.ほか内外の文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、国内外ともに数えきれないほどあるので、授業中にその都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN (担当者自己紹介、受講者自己紹介、授業のガイダンスなど)
- 第2回 ガバナンス概念についての講義【ガバナンス】【ロッド・ローズ】【ピエールとピーターズ】
- 第3回 ガバナンス概念についての講義【社会中心モデル】【国家中心モデル】
- 第4回 Bell and Hindmoor 第1章【国家中心アプローチ】
- 第5回 Bell and Hindmoor 第2章【国家の再発見】
- 第6回 Bell and Hindmoor 第3章【メタガバナンスと国家の能力】
- 第7回 Bell and Hindmoor 第4章【ハイアラーキーとトップダウンガバナンス】
- 第8回 Bell and Hindmoor 第5章【説得を通じたガバナンス】
- 第9回 Bell and Hindmoor 第6章【市場と契約を通じたガバナンス】
- 第10回 Bell and Hindmoor 第7章【コミュニティ参加を通じたガバナンス】
- 第11回 Bell and Hindmoor 第8章【アソシエーションガバナンス】
- 第12回 Bell and Hindmoor 第9章【結論】【国家中心アプローチ】【社会中心アプローチ】
- 第13回 別文献の購読①【ネットワーク・ガバナンス論】
- 第14回 別文献の購読②【参加型ガバナンス論】
- 第15回 議論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、中間論文・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの輪読のためには、相応の準備が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第一特殊講義IB

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)

これまで、「現代政治思想」というテーマの下に、受講生との相談の上、佐藤正志・添谷育志編『政治概念のコンテクスト』(早稲田大学出版部)を用いて、立憲主義、自然法、功利主義、ユートピア、社会契約などの基本概念について考察したり、E・バリバール、I・ウォーラスティン『人種・国民・階級』(大村書店)を用いて、人種主義、ナショナリズム、エスニシティなどについて考察してきた。今年度も、受講生の論文作成との関連で具体的なテーマを決めるつもりであるが、受講生の特別の希望がなければ、「現代政治思想」を代表する幾人かの政治思想家を取り上げ、その理論を考察する予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献の一つとして、藤原保信『20世紀の政治理論』(藤原保信著作集第5巻、新評論、2006年)を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の論文テーマを聞き、テキストの選定を行う。

特に希望がなければ、以下の内容で進めます。

第2回 危機の政治思想について(H・J・ラスキを中心として)の発表と討議

第3回 危機の政治思想について(H・ケルゼンを中心として)の発表と討議

第4回 危機の政治思想について(H・ヘラーを中心として)の発表と討議

第5回 危機の政治思想について(C・シュミットを中心として)の発表と討議

第6回 危機の政治思想について(M・ウェーバー、R・ヘベルレを中心として)の発表と討議

第7回 危機の政治思想について(ラスキ、ケルゼン、ヘラー、シュミット、ウェーバー、ヘベルレ)のまとめ

第8回 ポスト・モダンの政治思想にの発表と討議

について(M・ホルクハイマーを中心として)の発表と討議

第9回 ポスト・モダンの政治思想について(T・W・アドルノを中心として)の発表と討議

第10回 ポスト・モダンの政治思想について(H・アレントを中心として)の発表と討議

第11回 ポスト・モダンの政治思想について(J・ハーバーマスを中心として)の発表と討議

第12回 ポスト・モダンの政治思想について(M・フーコーを中心として)

第13回 ポスト・モダンの政治思想について(アドルノ、ホルクハイマー、アレント、ハーバーマス、フーコー)のまとめ

第14回 本授業のまとめI

第15回 本授業のまとめII

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容と発表の姿勢・方法

発表の姿勢・方法...20% 発表の内容...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメの作成

履修上の注意 /Remarks

履修条件は関心を持っていることのみ。法律系、政策系を問いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しいテーマやテキストも、みんなで読み議論していると、何らかの解決方法が見つかるものです。これまでの殻を破るためにも、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

地域研究第一特殊講義IB

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、まちづくりや開発においてよく用いられている「参加型」方式の意味を考える。そのためには社会関係資本と参加型開発の概念がきちんと理解されていなければならない。本授業では、まず、それらを理解し、実例の検討を行っていききたい。

教科書 /Textbooks

- * 佐藤寛編『参加型開発の再検討』JETRO/アジア経済研究所、2003年
- * 佐藤寛編『援助と社会関係資本』JETRO/アジア経済研究所、2001年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 参加型開発の概念規定 【参加型開発】
- 3回 参加型開発の手法 【手法】
- 4回 女性の参加 【女性】
- 5回 参加型開発におけるNGOの役割 【NGO】
- 6回 参加型開発の事例紹介(1)
- 7回 参加型開発の事例紹介(2)
- 8回 参加型開発の事例紹介(3)
- 9回 社会関係資本の概念規定 【社会関係資本】
- 10回 開発事業の中に見る社会関係資本(1)
- 11回 開発事業の中に見る社会関係資本(2)
- 12回 開発事業の中に見る社会関係資本(3)
- 13回 受講生による参加型開発と社会関係資本に対する批評 【批評】
- 14回 受講生による参加型開発と社会関係資本に対する批評
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む態度 ... 30 % 発表方法・内容 ... 50 % 討論への参加 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定資料の事前読解

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みずからも、大学院生として積極的に地域社会などの事業に参加する姿勢を持つと同時に、実行してもらいたい。

キーワード /Keywords

参加型開発 社会関係資本 NGO 女性

政策研究第一特殊講義IB

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、我が国の都市環境は大きく変化している。その中で地方都市は、地域の産業を育成し、人口の流出を防ぎ、都市の活性化と持続的な発展に向けた努力を続けている。
この授業では、地域の技術系企業の振興を主たる目的として、従来の国の産業政策を踏まえ、地域イノベーション・システムの確立に向けた地域産業政策のあり方を探る。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 わが国の産業政策の潮流
- 3回 産業政策と国土政策の関係
- 4回 地方自治体の産業政策の概要
- 5回 地方自治体の中小企業政策
- 6回 産業集積理論の変遷
- 7回 産業クラスター計画
- 8回 産業クラスター計画の課題
- 9回 技術系中小企業の課題
- 10回 技術移転の仕組み
- 11回 技術移転機関のあり方
- 12回 産業支援機関の機能
- 13回 地域の産業支援機関のあり方
- 14回 地域イノベーションシステム
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治体の動向や地域産業に関心を持ち、社会経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIB

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、公共政策の方法論に関する問題か、都市部の「限界コミュニティ」の問題や単身世帯急増など最先端の問題を取り上げ議論できればと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

芳賀祥泰編著『福祉の学校-安全・安心・快適な福祉国家を目指して-』（エルダーサービス、2010年）。

藤森克彦『単身世帯急増社会の衝撃』（日本経済新聞社、2010年）。

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 現代日本の公共政策とそのポイント(1)-少子高齢社会
- 第3回 現代日本の公共政策とそのポイント(2)-人口減少社会の到来
- 第4回 現代日本の公共政策とそのポイント(3)-巨額の財政赤字
- 第5回 現代日本の公共政策とそのポイント(4)-単身世帯の急増
- 第6回 現代日本の公共政策とそのポイント(5)-格差社会
- 第7回 限界集落とは何か
- 第8回 限界集落と事例研究
- 第9回 限界集落の再生
- 第10回 都市の限界コミュニティ
- 第11回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 第12回 限界コミュニティの再生
- 第13回 フードデザート、買物難民(弱者)とは?
- 第14回 買物難民(弱者)の対策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーション等も含む) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIIB

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学術論文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 理論編①自由と平等
- 第2回 理論編②政府の役割
- 第3回 理論編③福祉国家の類型
- 第4回 社会保険編①年金
- 第5回 社会保険編②年金
- 第6回 社会保険編③年金
- 第7回 社会保険編④年金
- 第8回 社会保険編⑤医療
- 第9回 社会保険編⑥医療
- 第10回 社会保険編⑦医療
- 第11回 社会保険編⑧医療
- 第12回 生活保護
- 第14回 生活保護
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策研究第一特殊講義IVB

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政策過程と政治現象を理解するため、著作を読んで議論し、それに関する理解と知識を広げてもらう。また、修士論文の作成に向けた論理構成、調査方法、論文の書き方について3 - 4回、議論する。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、以下の著作（政策過程の基本）を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部斉(1989)、現代政治と政治学、岩波書店
 佐伯啓思 (1997)、現代民主主義の病理、NHKBooks
 伊藤光利外 (2000)、政治過程論、有斐閣アルマ
 村松岐夫外 (2001)、日本の政治、有斐閣Sシリーズ
 蒲島郁夫外 (2007)、メディアと政治、有斐閣アルマ
 その他、
 アメリカなど海外での日本政治研究論文
 以上の本、論文を、参加者の論文テーマに合わせ、議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 紹介、読みたい本を選ぶ。
 第 2回 ~ 第 5回 論理構成、調査方法、論文の書き方
 第 6回 ~ 第 10回 佐伯啓思、現代民主主義の病理、
 伊藤光利外、政治過程論、
 第 11回 ~ 第 13回 村松岐夫外、日本の政治。
 蒲島郁夫外、メディアと政治、有斐閣アルマ
 第 14回 ~ 第 15回 アメリカなど海外での日本政治研究考察、授業の総括
 その他、論文のコピーを配布する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 (60%) 議論 (40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

政治学、政策過程論などの授業（学部）を受講すること。
 論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
 参考文献の中で関連文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義VB

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
					○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで演習に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定であり、受講生の研究テーマや学年によっては分析方法に関する文献を輪読する場合もある。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告
- 3回～7回 文献輪読
- 8回 受講生の研究報告
- 9回～14回 文献輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告60%、議論への参加・貢献40%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいという議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義VIB

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。(政策研究特殊講義VI Aとの違いは、Aは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してBはAの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。)政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。(政策問題の例：失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策)

教科書 /Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ政策研究特殊講義VI Aで使用するテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、Bを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。また、the OECD (www.oecd.org)が提供しているデータや研究結果はたくさん利用しなければならないので、同機構のデータや研究の利用には学期中あるいはその前に慣れること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果をもとに、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週の具体的なトピックは、第1・2週の授業の中で相談の上決める。

1. 問題設定、運営計画作成
- 2-7. 報告、考察、批評、提言
- 8-10. 中間報告、考察、批評、提言
- 11-14. 再分析、再考察、最終作業
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)授業参加における積極性や質が40%、(2)調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

政策研究特殊講義VI Aを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

政策応用第一特殊講義I

担当者名 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治理論と公共哲学の諸理論は、現代の様々な公共政策の決定・評価に対してその理論的基盤を提供している。授業では、公共政策の決定・評価に関わる現代政治理論および公共哲学の諸理論について解説し、また受講者との議論を通じて現代政治理論と公共哲学の視点から、公共政策の決定・評価について理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

足立幸男著『政策と価値 - 現代の政治哲学 -』ミネルヴァ書房(1991年1月)
W. キムリツカ著、訳者代表 千葉真・岡崎晴輝『新版 現代政治理論』日本経済評論社(2005年11月)
佐々木毅・金泰昌編『21世紀公共哲学の地平 - 公共哲学10 -』東京大学出版会(2002年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 「科学は公共政策の決定・評価に対して何を為しうるのか」
- 2回 現代政治理論と公共政策(1) 【功利主義】
- 3回 現代政治理論と公共政策(2) 【保守主義】
- 4回 現代政治理論と公共政策(3) 【リベラリズム】
- 5回 現代政治理論と公共政策(4) 【リバタリアニズム】
- 6回 現代政治理論と公共政策(5) 【ロールズの正義論】
- 7回 現代政治理論と公共政策(6) 【コミュニタリアニズム】
- 8回 現代政治理論と公共政策(7) 【シティズンシップ】
- 9回 現代政治理論と公共政策(8) 【多文化主義】
- 10回 「公共哲学とは何か」
- 11回 公共性論(1) 【ユルゲン・ハーバーマス】
- 12回 公共性論(2) 【ハンナ・アレント】
- 13回 公共哲学と公共政策(1) 【現状と課題】
- 14回 公共哲学と公共政策(2) 【事例研究】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代政治理論・公共哲学・公共政策

政策応用第一特殊講義II

担当者名 /Instructor 中園 哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 日本でも有数の公害被害を経験した北九州市が、公害を克服しただけでなくその経験を活かして世界に誇れる環境モデル都市となったのは何故か？ 北九州独自の考え方と成功要因を考える。
- 公害問題の背景と具体的な公害克服の過程を通じて、市民・企業・行政・大学の果たした役割を理解し、公害問題解決の手法を学ぶ。また、公害を克服したにも拘わらず、市民をはじめとして「公害都市・北九州」のイメージが定着していた北九州市が、どのようにして「環境先進都市」へと脱皮することができたのかを学ぶ。
- 環境国際協力の実績を通じて、国際社会における日本への期待と北九州市の貢献を理解するとともに、地球環境問題への取組や環境ODAの意義を考える。また、廃棄物行政の経緯とエコタウンへの発展の過程を通じて資源循環型社会づくりにおける市民・企業・行政・大学の新しい役割を考える。これらに基づき、環境モデル都市の構築とアジアへの普及についてどのようなことができるか、何をすべきかを考える。

教科書 /Textbooks

参考文献、教科書なし。毎回レジユメおよび関係資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：北九州市の環境政策の概要と講義の進め方について
- 2回 公害問題の発生と対策：前例のない社会問題に市と市民はどのように立ち向かったか
- 3回 スモッグ警報発令と全市の協力体制確立：北九州市の決断と企業の協力
- 4回 公害国会における公害関連法制度の確立：開発より環境への動き
- 5回 公害の克服と新しい環境問題への取り組み：後追い行政から未然防止へ
- 6回 環境国際協力の取り組み：中国大連市との環境協力など
- 7回 環境国際協力の展開とODA：K I T A環境協力センターの取り組み
- 8回 国際社会からの評価：グローバル500受賞が市民にもたらしたもの
- 9回 地球環境問題への取り組み：国際社会からの期待と北九州市の取り組み
- 10回 廃棄物処理対策の方針転換：「処理重視から資源リサイクルへ」
- 11回 エコタウンと3R：循環型社会構築への道のり
- 12回 PCB処理とリスクコミュニケーション：市民環境力とはなにか
- 13回 環境教育と市民活動：環境教育の歩みと多様化する市民活動の発展
- 14回 低炭素社会づくりと環境モデル都市への道：今、求められるもの
- 15回 まとめ：北九州の環境政策はなぜ成功したのか、何が足りないか

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加とレポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「北九州市環境首都検定公式テキスト」で、基礎的な知識を得ておくことにより、講義への理解がいつそう進む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策応用第一特殊講義III

担当者名 /Instructor 古田 稔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、これまでにないスピードで社会が変化し、明治近代国家誕生後の既存の行政システムでは社会の様々な問題点に対処できなくなっています。
特に政府、地方自治体は公的サービスの提供に限界が見えてきています。
20世紀は企業や政府が社会を牽引してきましたが21世紀は自己責任と市民社会の時代です。
担い手の多様化が強く求められています。
こうした中で地域社会における非営利組織(NPO: Non-Profit Organization)が活発に活動しています。
こうした活動の背景と組織経営の実態及び課題を理解し、NPOの設立、経営、業績評価等について授業を進めます。
また、NPOと企業、行政との関係にも着目し、その違いや連携(協働)についても理解を深めていきます。
国内外、特に福岡県、北九州市の個別事例を通して、それぞれの活動使命、運営事情を理解し、ヒト・モノ・カネ・情報の面からみたマネジメントの課題、ならびに組織における“ひと”、“働くこと”について検討していきます。
本授業では、配布資料、パワーポイントやビデオを活用します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回: NPOの[ミッション]
- 2回: [市民の自立]とNPO法施行から現在まで
- 3回: [市民の自立]とNPO 福岡県、北九州市、福岡市の場合
- 4回: NPOの歴史的変遷と[NPO法人制度]
- 5回: [NPOと政府、企業]との[協働] 福岡県、北九州市の事例
- 6回: NPOな人々
- 7回: 指定管理者制度とNPO
- 8回: 社会サービスとNPO
- 9回: [NPOと政府、企業]
- 10回: [社会的企業(ソーシャルエンタープライズ)]
- 11回: [社会的使命]と経営戦略
- 12回: [NPOでのリーダーシップ]と組織運営の実際
- 13回: [NPOのマネージメント(資金、計画、評価)]の実際
- 14回: [NPOの事業プラン]の作成
- 15回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会に対する問題意識を持って、NPOを考察してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会の諸事情、方向性、問題のさまざまな角度からNPOが捉えられるように、新聞、雑誌の記事、解説記事、テレビのニュースを、読み込んでください。

キーワード /Keywords

NPO NGO 特定非営利活動法人 社会起業 ボランティア NPO支援税制 社会貢献 協働 コミュニティ ミッション

政策応用第一特殊講義Ⅳ

担当者名 山脇 直祐・中野 次吉
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教員2名で授業をおこないます。テーマは現代社会における居住政策（担当：山脇）、医療政策（担当：中野）です。

<山脇>

他者との関係のなかで「住む」ということは、生きていく上で避けようのない事実です。この避けようのない事実から始めて、新たな政策展開の可能性を考察したい。

<中野>

21世紀最大の政策課題は、ヘルス・ケア分野だといわれます。健康という言葉は様々な意味を含みます。授業では、疾病対策という観点から医療政策・医療倫理を学びます。具体的には、遺伝子治療、安楽死、脳死という3つのテーマから、医療政策を考える基礎知識、法、倫理を学びます。医療・福祉分野に進みたい学生を歓迎します。

教科書 /Textbooks

<山脇>

毎回、レジユメを配布します。

<中野>

用意したプリントを使います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

<山脇>

その都度、紹介します。

<中野>

授業のなかで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<山脇>

- 第1回：「住むこと」とは何であったか～住宅政策における「住宅」観～
- 第2回：「51C」から「居住福祉」へ～住宅改良の社会史～
- 第3回：居住地によるデモクラシー？
- 第4回：“困った人たち”の物語～マンション管理狂騒曲～
- 第5回：揺れ続けたマンション～阪神淡路大震災被災マンションの建替え～
- 第6回：不法占拠の“法外”な合法性？～ウト口51番地・伊丹空港に住んだ人々～
- 第7回：いかにして「住む」か。どのように「住む」か。
～コーポラティブ・ハウジングという手法と、コレクティブ・ハウジングという可能性～
- 第8回：「住むこと」とは何でありうるか～居住政策の可能性についての総括～

<中野>

- 第9回：遺伝子治療①－高度医療の問題点（例「人体製造」）
- 第10回：遺伝子治療②－科学・技術に対する政策観点
- 第11回：安楽死①－医療と法「安楽死は殺人か？」（例「カレン事件」）
- 第12回：安楽死②－安楽死の法理（例「東海大学安楽死事件」）
- 第13回：脳死①－脳死の基礎概念「死の合法性」（例「脳死の医学基準、哲学基準」）
- 第14回：脳死②－脳死と法（例「脳死・臓器移植法」）
- 第15回：まとめ－現代医療と法、倫理

政策応用第一特殊講義IV

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員の評価を50点ずつとし、合計100点で評価します。

<山脇>

受講姿勢のほか、論述試験を予定しています。

<中野>

レポート（授業で扱ったテーマから一つを選択）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

<山脇>

自分なりの問題意識をもつこと。

<中野>

事前の予習を重視します。参加人数にもよりますが、報告をしてもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

<山脇>

臆しない。悩まない。困ったら、応相談。

<中野>

とくにありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

<山脇>

出来、不出来より積極性を評価します。修士論文作成に向けて、進路形成に向けて、いかに講義を活用するかを考えてもらいたい。

<中野>

積極的な発言を歓迎します。

キーワード /Keywords

<山脇>

持家政策、居住政策、貧民窟、51C、居住福祉、集合住宅デモクラシー、私的政府、CID、マンション管理、被災建替え、合法性、コーポラティブ・ハウジング、コレクティブ・ハウジング

<中野>

遺伝子治療、安楽死、脳死

商法第一特別研究

担当者名
/Instructor

今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

4単位

学期

1・2学期(バ
ア)

授業形態

演習

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の論文執筆に資する文献等の紹介・輪読などを通して、修士論文作成上の助言・指導を行います。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は一応の目安であり、受講者との協議により適宜変更されることがあります。

第1回 ガイダンス 受講者と相談の上でゼミ運営方法・ゼミの実施内容につき協議します。

第2回～第5回 文献・判例の分析検討(1)～(4)

第6回～第10回 文献・判例の分析検討(5)～(9)

第11回～第14回 文献・判例の分析検討(10)～(13)

第15回 研究報告とまとめ

第16回～第20回 文献・判例の分析検討(14)～(18)

第21回～第25回 文献・判例の分析検討(19)～(23)

第26回～第29回 文献・判例の分析検討(24)～(27)

第30回 研究報告とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・議論内容・研究報告書の内容等を含む、ゼミへの参加度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、受講者各自の自発的な調査・研究活動が求められます。

詳細については、第1回ゼミガイダンスにおいてのみならず、随時、お知らせします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特別研究

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに応じて、刑法的知識の拡充を図り、より一層深い刑法学に関する幅広い知識と論理的思考力を身につけることをねらいとする。修士論文ないし特定課題研究の作成に向けた準備を行う。

教科書 /Textbooks

開講後、適宜決定・指導する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講後、適宜決定・指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談のうえ決定する。

第1回 授業計画・内容の説明
第2回 研究テーマの検討
第3回 研究テーマの確定
第4回 文献収集の方法
第5回 判例収集の方法
第6回 文献のまとめ方
第7回 判例のまとめ方
第8回 研究テーマに関する文献の収集
第9回 研究テーマに関する使用文献の選択
第10回 研究テーマに関する判例の収集
第11回 研究テーマに関する使用判例の選択
第12回 使用文献のまとめ①(報告)
第13回 使用文献のまとめ②(検討・指導)
第14回 使用判例のまとめ①(報告)
第15回 使用文献のまとめ③(報告)
第16回 使用文献のまとめ④(検討・指導)
第17回 使用判例のまとめ③(報告)
第18回 使用判例のまとめ④(検討・指導)
第19回 使用文献のまとめ⑤(報告)
第20回 使用文献のまとめ⑥(検討・指導)
第21回 論文の作成方法・心得
第22回 論文作成①(全体の構想)
第23回 論文の作成②(序論の報告)
第24回 論文の作成③(序論の検討・指導)
第25回 論文の作成④(本論の構成・指導)
第26回 論文の作成⑤(本論の報告)
第27回 論文の作成⑥(本論の検討・指導)
第28回 論文の作成⑦(結論の報告)
第29回 論文の作成⑧(結論の検討・指導)
第30回 論文の作成⑨(全体の検討・指導)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・態度等の平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマに関する文献の収集、整理を行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究テーマに関する論点、重要文献・判例を調べて、これを収集し、精読し、整理しておくこと。

刑法第一特別研究

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第一特別研究

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の論文指導

教科書 /Textbooks

院生の研究テーマに沿った教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

院生の進捗状況を考慮して決めていくことにする。

- 第1回 研究テーマに関する聴取
- 第2回 ~ 4回 問題領域の確認と指導
- 第5回 ~ 6回 研究に関する指導
- 第7回 ~ 8回 必須文献の提示と指導
- 第9回 ~ 12回 文献の解読と指導
- 第13回 ~ 17回 進捗状況の確認と指導
- 第18回 ~ 22回 論文作成上の指導
- 第23回 ~ 26回 論文作成の進捗状況の確認と指導
- 第27回 ~ 28回 論文作成の完成に向けての指導
- 第29回 ~ 30回 論文完成の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の成果・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定の文献を事前に十分吟味し検討すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第一特別研究

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ 授業形態 演習 ア) クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の選択した研究テーマについて、主に理論的および方法論的問題に焦点をあてて、英米の重要文献を批判的に検討する。上記の検討を踏まえて、各自の研究テーマに即した「リサーチ・デザイン」の検討・作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(修士論文とは)
- 第2回 修士論文執筆の作法
- 第3回 研究者の倫理
- 第4回 関心領域(暫定的研究テーマ)の確認
- 第5回 リーサーチ・デザインの策定
- 第6回 文献調査(1)――邦語文献収集
- 第7回 文献調査(2)――外国語文献収集
- 第8回 文献調査(3)――第一次文献リスト作成
- 第9回 参考文献についての解説・助言
- 第10回 その他の文献・資料などの分析・検討
- 第11回 テーマの確定
- 第12回 問題設定
- 第13回 分析枠組――論文構成の検討
- 第14回 論文の体裁についての指導
- 第15回 プロスペクタスの提出
- 第16回 中間報告①序論
- 第17回 中間報告②問題設定についての論評及び修正
- 第18回 中間報告③過去の研究又は文献の検討
- 第19回 中間報告④過去の研究又は文献の検討についての論評及び修正
- 第20回 中間報告⑤理論的枠組の検討
- 第21回 中間報告⑥理論的枠組についての論評及び修正
- 第22回 中間報告⑦分析方法の検討
- 第23回 中間報告⑧分析方法についての論評及び修正
- 第24回 中間報告⑨分析結果
- 第25回 中間報告⑩分析結果についての論評及び修正
- 第26回 中間報告⑪結論及び考察
- 第27回 中間報告⑫結論及び考察についての論評及び修正
- 第28回 最終報告
- 第29回 最終報告についての論評と修正
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文作成の基礎づくりのために、刑事法関連科目の受講を薦めます。

履修上の注意 /Remarks

社会科学系大学院生向けの「論文の書き方について」の教本を一冊手元に置いておくことが論文執筆には有益です。論文の体裁については、各専門領域の学会誌・機関誌の投稿規程(執筆ガイドライン)などを参照しておくことが望まれる。

刑事学第一特別研究

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第一特別研究

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文・特定課題研究等の作成を間接的に支援することを目的とします。
院生の中には、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、国際法上の議論に触れ、その理解を深める必要を感じている者が少なからずいることと思われます。本講義では、そのような事情を有する者に対し、その機会を提供しようということを考えています。
受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていっこうに構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の専門領域とは異なつたとしても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れてください。

教科書 /Textbooks

必要に応じ、受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の能力・人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

昨年度からの継続指導の該当者はいないので、1年めの指導計画・内容(ほぼ初学者・単独の場合)を例示する。

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 修士論文 / 特定課題研究で扱いたいテーマの確認
- 第3回 テーマに関する資料収集① 邦語文献【書籍・論文】
- 第4回 テーマに関する資料収集② 外国語文献【書籍・論文】
- 第5回 テーマに関する資料収集③ WEB【国内の公的機関等】
- 第6回 テーマに関する資料収集④ WEB【外国の公的機関等】
- 第7回 テーマに関する資料収集⑤ WEB【国際機関】
- 第8回 テーマに関する資料収集⑥ 判例【国内】
- 第9回 テーマに関する資料収集⑦ 判例【外国・国際】
- 第10回 邦語文献を用いた研究の進め方
- 第11回 邦語文献の精読①
- 第12回 邦語文献の精読②(続き)
- 第13回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」① 【論文A】
- 第14回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」② 【論文B】
- 第15回 1学期進捗状況の振り返りと夏季休暇中の作業の確認
《夏季休暇》
- 第16回 判例を用いた研究の進め方
- 第17回 判例研究① 判決文の精読
- 第18回 判例研究② 判決文の精読(続き)
- 第19回 判例研究③ 原判決等との比較検討
- 第20回 判例研究④ 判例評釈等の活用
- 第21回 レジユメを用いた判例研究の「報告」
- 第22回 外国語文献を用いた研究の進め方① 語学力の確認
- 第23回 外国語文献を用いた研究の進め方② パラグラフリーディングと論文構造の把握(一読によるあらレジユメの作成)
- 第24回 外国語文献の精読①
- 第25回 外国語文献の精読②(続き)
- 第26回 外国語文献の精読③(続き)
- 第27回 外国語文献の精読④(続き)
- 第28回 レジユメを用いた外国語文献の「報告」
- 第29回 修士論文 / 特定課題研究で扱いたいテーマの明確化
- 第30回 2学期進捗状況の振り返りと2年次に向けての作業の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

国際法第一特別研究

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。まずは ninomiya@kitakyu-u.ac.jp まで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した(させられた)という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えています。院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

キーワード /Keywords

【修士論文】 【特定課題研究】 【指導】 【国際法】

日本法制史第一特別研究

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 論文作成についての解説
- 3 研究テーマについての相談、指導
- 4 論文構想発表
- 5 論文構想についての講評、史料解説
- 6 研究テーマに関する古文書の基礎【総論】
- 7 研究テーマに関する古文書の基礎【様式】
- 8 研究テーマに関する古文書の読解【公式様文書】
- 9 研究テーマに関する古文書の読解【武家様文書】
- 10 研究テーマに関する古文書の読解【上申文書】
- 11 研究テーマに関する古記録
- 12 研究テーマに関する古記録の読解
- 13 研究テーマに関する編纂物についての基礎
- 14 論文中間発表
- 15 中間発表の講評と再検討
- 16 論文作成状況発表 その1
- 17 論文作成状況発表 その2
- 18 論文作成状況発表 その3
- 19 論文作成状況発表 その4
- 20 論文作成状況発表 その5
- 21 論文作成状況発表 その6
- 22 論文作成状況発表 その7
- 23 論文作成状況発表 その8
- 24 論文作成状況発表 その9
- 25 論文作成状況発表 その10
- 26 論文作成状況発表 その11
- 27 決定稿のためのプレ発表
- 28 プレ発表の講評
- 29 最終発表
- 30 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

定期的に論文構想について報告

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本法制史第一特別研究

キーワード /Keywords

政治思想史第一特別研究

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)

この特別研究では、修士論文を書くことを前提に、指導教員と受講生双方が納得の行く論文を完成させることを目的とします。したがって、受講生の積極的な受講を期待しています。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

昨年度は、受講生の研究テーマがヘルマン・ヘラー、カール・シュミット、ハンス・ケルゼンなどドイツの政治思想に関するものであったので、ヘラーとシュミットに関する著書、論文を講読した。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献一覧を一緒に作成します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 今後のスケジュールおよびテーマの決定
- 第2回 参考文献一覧の作成
- 第3回 参考文献に関する発表 1
- 第4回 参考文献に関する発表 2
- 第5回 参考文献に関する発表 3
- 第6回 参考文献に関する発表 4
- 第7回 執筆論文の中間発表 1
- 第8回 参考文献に関する発表 5
- 第9回 参考文献に関する発表 6
- 第10回 参考文献に関する発表 7
- 第11回 参考文献に関する発表 8
- 第12回 執筆論文の中間発表 2
- 第13回 参考文献に関する発表 9
- 第14回 参考文献に関する発表 10
- 第15回 執筆論文の中間発表 3
- 第16回 テーマと論文執筆方針の確認
- 第17回 執筆論文の中間報告 4
- 第18回 参考文献に関する発表 11
- 第19回 参考文献に関する発表 12
- 第20回 参考文献に関する発表 13
- 第21回 参考文献に関する発表 14
- 第22回 執筆論文の中間発表 5
- 第23回 参考文献に関する発表 15
- 第24回 参考文献に関する発表 16
- 第25回 参考文献に関する発表 17
- 第26回 参考文献に関する発表 18
- 第27回 執筆論文の中間発表 6
- 第28回 執筆論文の中間発表 7
- 第29回 執筆論文の最終確認 1
- 第30回 執筆論文の最終確認 2

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告の方法・姿勢 20%
論文の内容 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメの作成

政治思想史第一特別研究

履修上の注意 /Remarks

1年次は、文献収集と文献講読を中心にして進め、2年次には、論文作成のスケジュールに従って、順次、中間報告を行ってもらう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文執筆には、日々の地道な努力が必要です。
少しずつ前に進みましょう。

キーワード /Keywords

地域研究第一特別研究

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学院修士課程の総決算としての論文(修士論文もしくは特別課題論文)作成の学習を行う。論文に必要なねらい(仮説を伴う)、構成、注記や参考資料表の作成など文献を読んだり、教員による指導を受けたりして、それぞれが事前に準備してきた論文の進捗状況を発表する。その発表内容については、教員個人による指導でなく、参加学生全員で議論する。ただし、今年度は2学期半年間で終了の予定であるので、効率的な集中指導を心がけたい。

教科書 /Textbooks

特になし(論文の書き方などの文献を時に使うことがある)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない(各自で参考文献表を作成してもらう)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業内容の説明	2回 「論文の書き方」の確認 = 該当文献を基礎にして
3回 「論文の書き方」の確認	4回 「論文の書き方」の確認
5回 「論文の書き方」の確認	6回 資料収集方法の説明
7回 資料収集の練習	8回 資料収集の練習
9回 論文のねらい・構成・参考文献発表	10回 論文のねらい・構成・参考文献発表
11回 論文のねらい・構成の発表・議論	12回 論文のねらい・構成の発表・議論
13回 論文の進捗状況の発表・議論(資料の整理)	14回 論文の進捗状況の発表・議論(資料の整理)
15回 論文の進捗状況の発表・議論(資料紹介)	16回 論文の進捗状況の発表・議論(資料紹介)
17回 論文の進捗状況の発表・議論(資料紹介)	18回 論文の進捗状況の発表・議論(資料紹介)
19回 論文の進捗状況の発表・議論(資料紹介)	20回 論文の進捗状況の発表・議論(資料紹介)
21回 中間のまとめ作業	22回 中間のまとめ作業
23回 論文の進捗状況の発表・議論(構成を中心)	24回 論文の進捗状況の発表・議論(構成を中心)
25回 論文の進捗状況の発表・議論	26回 論文の進捗状況の発表・議論
27回 論文の進捗状況の発表・議論	28回 論文の進捗状況の発表・議論
29回 他の教員を交えての議論	30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表方法 ... 30 % 発表内容 ... 40 % 討論への参加 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文作成にあたっての日常的な調査研究の準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文は修士課程での学習・研究の集大成なので、受講生自らが納得のいく内容や文量のものを書いてもらいたい。

キーワード /Keywords

修士論文 特別課題論文

政策研究第一特別研究

担当者名 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的に、受講生の執筆する論文に関する指導を行うこととするが、必要に応じ、産業振興策を中心とするこれまでの地方自治体の各種政策の実態、国の地域振興政策との関係などを紹介し、論文執筆に必要な知識等を提供する。
受講者の問題意識を深化させ、課題解決に向けた地域社会システムの実現のために、自主的に研究することを強く期待する。

教科書 /Textbooks

論文のテーマに応じ、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文のテーマに応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究テーマに関する討議
- 3回 地方自治体の使命と政策体系
- 4回 地方自治体の産業政策(総論)
- 5回 地方自治体の産業政策(各論)
- 6回～15回 論文指導
- 16回 論文中間発表(1回目)
- 17回～25回 論文指導
- 26回 論文中間発表(2回目)
- 27回～29回 論文指導
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における討議への参画状況、論文の評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文テーマを明確にし、論文に関連するデータの収集に務めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特別研究

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

公共政策もしくは地域公共政策の論文指導を行う。具体的には、テーマの選定からリサーチ・クエスションのたてかた、及び仮説のたてかた、さらに量的分析・質的分析の説明から論文執筆に際して注意すべき点、引用注の付け方まで、順を追って修士論文の作成の仕方について指導していく予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせてその都度決定していくが、とりあえずは以下のようなスケジュールで進める予定です。

- 第1回 導入
- 第2回 修士論文作成に際しての心得
- 第3回 テーマの選定について
- 第4回 リサーチクエスションをたてる
- 第5回 仮説をたてる
- 第6回 文献調査について(1)-図書館等の使い方
- 第7回 文献調査について(2)-邦語文献の収集
- 第8回 文献調査について(3)-外国語文献の収集
- 第9回 第一次文献リストの作成
- 第10回 量的調査
- 第11回 質的調査
- 第12回 テーマの(仮)決定
- 第13回 論文の構成について
- 第14回 論文の書き方-引用注の付け方等について
- 第15回 論文の体裁についての指導
- 第16回 テーマ設定、調査方法などに関する論評及び修正
- 第17回 先行研究の検討
- 第18回 先行研究及び関連研究の検討
- 第19回 先行研究と自らの研究の検討(先行研究のどこを乗り越えるのか)
- 第20回 調査方法の検討
- 第21回 調査票等の作成
- 第22回 調査の設計
- 第23回 調査の実施
- 第24回 調査結果の整理
- 第25回 調査結果の報告
- 第26回 中間報告の準備
- 第27回 中間報告
- 第28回 中間報告の論評・修正
- 第29回 最終報告
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

政策研究第一特別研究

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示した箇所は必ず前もって検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特別研究

担当者名 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書 /Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文作成者の分野が判明するまでなし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適切な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即時始める。それがある程度終わった後、研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II (応用)
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II (応用)
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II (応用)
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II (応用)
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII (応用)
14. 小括
15. まとめ
16. 問題設定、運営計画作成
- 17-22. 報告、考察、批評、提言
- 23-25. 中間報告、考察、批評、提言
- 26-29. 再分析、再考察、最終作業
30. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の内容・スケジュールに書かれていることを実行する。

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

行政法第一特別研究

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究は、修士学位論文を作成するための研究指導である。
受講者の関心領域に応じて、論文作成に必要な文献を選び、順次検討するとともに、論文作成に向けた指導を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回～ 3回	関心領域の確認、
4回～ 5回	研究計画の策定
6回～ 15回	基礎的な文献についての検討および解説
16回～ 20回	追加的な文献についての検討および解説
21回～ 25回	進捗状況の確認(1)ー前半についての報告
26回～ 29回	進捗状況の確認(2)ー後半についての報告
30回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 50% 報告... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回について適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

第一特別研究は第二特別研究とセットであるから、引き続き第二特別研究を履修することが必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特別研究

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導をすることを目的とした授業です。各自の研究に役立つ範囲で、ドイツ民法またはフランス民法に関する外国文献と一緒に読もうと思っています。

教科書 /Textbooks

指定はありません。外国文献についてはコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究テーマ策定
- 3回 研究テーマ、研究概要報告、基本文献・資料の選択
- 4回 研究方法の検討、論点抽出
- 5回 論点報告 - その1
- 6回 論点報告 - その2
- 7回 論点報告 - その3
- 8回 論点報告 - その4
- 9回 論点報告 - その5
- 10回 報告内容の中間のまとめ - 論点整理、補充指導
- 11回 論点追加報告 - その1
- 12回 論点追加報告 - その2
- 13回 論点追加報告 - その3
- 14回 論点追加報告 - その4
- 15回 報告内容のまとめ、研究内容の再確認
- 16回 論文構成指導 - その1
- 17回 論文構成指導 - その2
- 18回 論文構成指導 - その3
- 19回 論文構成指導 - その4
- 20回 論文作成指導 - その1
- 21回 論文作成指導 - その2
- 22回 論文作成指導 - その3
- 23回 論文作成指導 - その4
- 24回 論文内容の報告 - その1
- 25回 論文内容の報告 - その2 (残された課題の整理)
- 26回 論文修正指導 - その1
- 27回 論文修正指導 - その2
- 28回 論文修正指導 - その3
- 29回 論文修正指導 - その4
- 30回 まとめ - 研究成果の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% レポート(200字詰原稿用紙30枚程度)... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生が主体的に取り組むのであれば研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジュメを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法第一特別研究

キーワード /Keywords

法哲学第一特別研究

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法哲学の修士論文もしくは特定課題研究の論文執筆を指導し、その完成を目指す。具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定する。

教科書 /Textbooks

テキストや参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに～ 修士論文について
- 第2回 研究計画の策定
- 第3回 修士論文の構想発表
- 第4回 研究テーマについての文献・資料等の検討①
- 第5回 研究テーマについての文献・資料等の検討②
- 第6回 研究テーマについての文献・資料等の検討③
- 第7回 研究テーマについての報告と議論①
- 第8回 研究テーマについての報告と議論②
- 第9回 研究テーマについての報告と議論③
- 第10回 修士論文の構想発表の修正①
- 第11回 修士論文の構想発表の修正②
- 第12回 研究テーマについての報告と議論④
- 第13回 研究テーマについての報告と議論⑤
- 第14回 研究テーマについての報告と議論⑥
- 第15回 修士論文の中間報告
- 第16回 修士論文の中間報告の修正①
- 第17回 修士論文の中間報告の修正②
- 第18回 修士論文についての報告と議論①
- 第19回 修士論文についての報告と議論②
- 第20回 修士論文についての報告と議論③
- 第21回 修士論文についての報告と議論④
- 第22回 修士論文についての報告と議論⑤
- 第23回 修士論文についての報告と議論⑥
- 第24回 修士論文についての報告と議論⑦
- 第25回 修士論文についての報告と議論⑧
- 第26回 修士論文についての報告と議論⑨
- 第27回 修士論文の最終報告
- 第28回 修士論文の最終報告の修正①
- 第29回 修士論文の最終報告の修正②
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学第一特別研究

キーワード /Keywords

法哲学 研究指導

私法領域第一特別研究

担当者名 小野 憲昭 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、「社会人コース」、「アドバンスコース」の院生を対象に修士論文又は特定課題研究完成に向けた研究指導を行うことを目的として開講しています。指導の詳細は院生と相談の上決定します。初回のガイダンスには必ず出席してください。

教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 集団指導教員、指導内容の相談
- 2回 代表教員による指導 - 研究テーマ、研究内容の検討
- 3回 代表教員による指導 - 研究方法の確認、基本文献・資料の選択
- 4回 代表教員による指導 - 研究指導計画策定
- 5回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その1
- 6回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その2
- 7回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その3
- 8回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その4
- 9回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その5
- 10回 集団指導教員①による指導 - 追加報告
- 11回 集団指導教員①による指導 - 研究報告のまとめ
- 12回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その1
- 13回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その2
- 14回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その3
- 15回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その4
- 16回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その5
- 17回 集団指導教員②による指導 - 追加報告
- 18回 集団指導教員②による指導 - 研究報告のまとめ
- 19回 代表教員による指導 - 研究内容中間報告、検討課題の整理
- 20回 代表教員による指導 - 研究報告 - その1
- 21回 代表教員による指導 - 研究報告 - その2
- 22回 代表教員による指導 - 研究報告 - その3
- 23回 代表教員による指導 - 研究報告 - その4
- 24回 代表教員による指導 - 研究報告 - その5
- 25回 代表教員による指導 - 論文(特定課題)構成指導 - その1
- 26回 代表教員による指導 - 論文(特定課題)構成指導 - その2
- 27回 代表教員による指導 - 論文(特定課題)研究内容修正指導 - その1
- 28回 代表教員による指導 - 論文(特定課題)研究内容修正指導 - その2
- 29回 代表教員による指導 - 論文(特定課題)研究内容修正指導 - その3
- 30回 代表教員による指導 - まとめ - 研究成果の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的取り組み・・・10% 特定課題研究成果・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生が主体的に取り組むのでなければ研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジュメを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

私法領域第一特別研究

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公法領域第一特別研究

担当者名 岡本 博志 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

公法領域特別研究は、「社会人コース」または「アドバンスコース」の学生が修士論文または特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。
受講者の関心領域に応じて、論文等の作成に必要な文献を選び、順次検討する。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～ 3回 関心領域の確認、
4回～ 5回 研究計画の策定
6回～ 15回 基礎的な文献についての検討および解説
16回～ 20回 追加的な文献についての検討および解説
21回～ 25回 進捗状況の確認(1)－前半についての報告
26回～ 29回 進捗状況の確認(2)－後半についての報告
30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 50% 報告... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回について適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

公法領域第一特別研究は原則として集団指導であるから、他の指導教員との調整により日程を変更することがある。
公法領域第一特別研究は公法領域第二特別研究とセットであるから、引き続き公法領域第二特別研究を受講することが必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策第一特別研究

担当者名
/Instructor

中道 壽一 他

履修年次 1年次
/Year単位
/Credits

4単位

学期
/Semester1・2学期(バ
ア)授業形態
/Class Format演習
クラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治と地域政策(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)

この特別研究では、修士論文を書くことを前提に、指導教員と受講生双方が納得の行く論文を完成させることを目的とします。したがって、受講生の積極的な受講を期待しています。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ、研究テーマとの関連で決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献一覧を一緒に作成します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 今後のスケジュールおよびテーマの決定
- 第2回 参考文献一覧の作成
- 第3回 参考文献に関する発表 1
- 第4回 参考文献に関する発表 2
- 第5回 参考文献に関する発表 3
- 第6回 参考文献に関する発表 4
- 第7回 執筆論文の中間発表 1
- 第8回 参考文献に関する発表 5
- 第9回 参考文献に関する発表 6
- 第10回 参考文献に関する発表 7
- 第11回 参考文献に関する発表 8
- 第12回 執筆論文の中間発表 2
- 第13回 参考文献に関する発表 9
- 第14回 参考文献に関する発表 10
- 第15回 執筆論文の中間発表 3
- 第16回 テーマと論文執筆方針の確認
- 第17回 執筆論文の中間発表 4
- 第18回 参考文献に関する発表 11
- 第19回 参考文献に関する発表 12
- 第20回 参考文献に関する発表 13
- 第21回 参考文献に関する発表 14
- 第22回 執筆論文の中間発表 5
- 第23回 参考文献に関する発表 15
- 第24回 参考文献に関する発表 16
- 第25回 参考文献に関する発表 17
- 第26回 参考文献に関する発表 18
- 第27回 執筆論文の中間発表 6
- 第28回 執筆論文の中間発表 7
- 第29回 執筆論文の最終確認 1
- 第30回 執筆論文の最終確認 2

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の方法・姿勢 20%

論文の内容 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメの作成

履修上の注意 /Remarks

1年次は、文献収集と文献講読を中心にして進め、2年次には、論文作成のスケジュールに従って、順次、中間報告を行ってもらう。

地域政策第一特別研究

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文執筆には、日々の地道な努力が必要です。
少しずつ前に進みましょう。

キーワード /Keywords

国際政策第一特別研究

担当者名
/Instructor

三宅 博之 他

履修年次 1年次
/Year単位 4単位
/Credits学期 1・2学期 (A)
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進んでいる中、それに伴って国際学や開発学は1980年代以降脚光を浴びてきた。日本でも数々の文献が執筆されている。科学技術の発展により、海外の情報が数多くインターネットを通じて入手可能である。それは、日本を含む世界が刻々と変化していることを伝えてくれている。本授業では、そのような変化する世界、特に開発途上国の現状や先進国への影響に関する修士論文もしくは特別課題論文作成にあたっての学習を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定はしないが、必要に応じてその都度資料を配布予定 (論文の書き方などの文献を時に使うことがある)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はしない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業内容の説明	2回 国際学・開発学の紹介～文献・資料を通じて
3回 国際学・開発学の紹介～文献・資料を通じて	4回 国際学・開発学の紹介～文献・資料を通じて
5回 国際学・開発学の紹介～文献・資料を通じて	6回 国際学・開発学の紹介～文献・資料を通じて
7回 「論文の書き方」の確認	8回 「論文の書き方」の確認
9回 論文のテーマ・ねらい設定と紹介	10回 論文のテーマ・ねらい設定と紹介
11回 論文の構成と参考資料発表と議論	12回 論文の構成と参考資料発表と議論
13回 論文の進捗状況発表～資料紹介	14回 論文の進捗状況発表～資料紹介・議論
15回 論文の進捗状況発表～資料紹介	16回 論文の進捗状況発表～資料紹介・議論
17回 論文の進捗状況発表～資料紹介	18回 論文の進捗状況発表～資料紹介・議論
19回 論文の進捗状況発表～資料紹介	20回 論文の進捗状況発表～資料紹介・議論
21回 中間のまとめ作業	22回 中間のまとめ作業
23回 論文の進捗状況発表・議論～構成を中心	24回 論文の進捗状況発表・議論～構成を中心
25回 論文の進捗状況発表・議論	26回 論文の進捗状況発表・議論
27回 論文の進捗状況発表・議論	28回 論文の進捗状況発表・議論
29回 他の教員を交えての意見交換	30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表方法 ... 30% 発表内容 ... 40% 討論への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文作成にあたっての日常的な調査研究の準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化の影響で、海外は非常に近くなっている。論文の対象とする現場には簡単にしか出かけることができないので、現場に出かけ、適切な資料を入手するように心がけてもらいたい。ためらう必要は全くない。

キーワード /Keywords

国際学 開発学 修士論文 特定課題論文